

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 喜界島方言の音韻

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木部, 暢子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00002428">https://doi.org/10.15084/00002428</a>

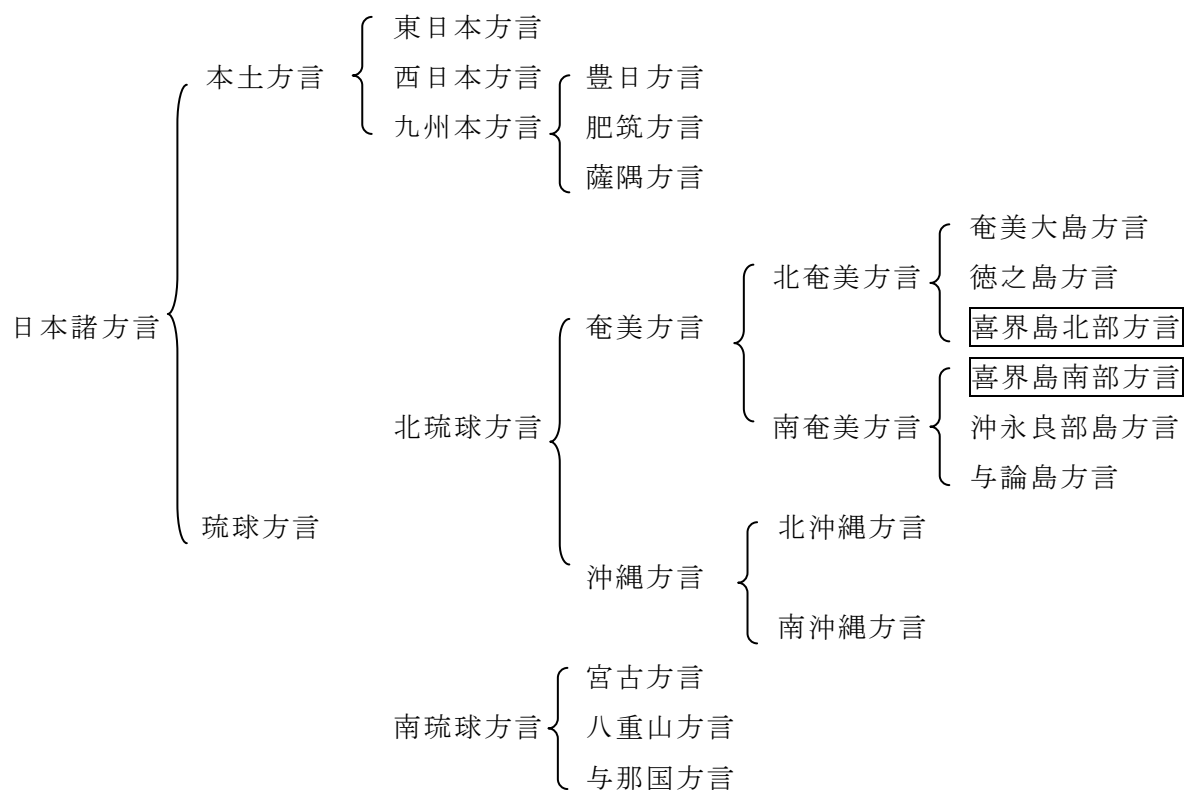
# 喜界島方言の音韻

木部 暢子

## 1 はじめに

喜界島の方言は、北部と南部で特色がかなり異なっている。例えば、北部では母音の種類が *i, i̇, u, e, ë, o, a* の7種類であるのに対し、南部では *i, u, e, o, a* の5種類である。また、「花」が北部では *pana* ないし *ɸana* と発音されるのに対し、南部では *hana* と発音される。北部と南部のこのような違いを考慮して、中本・中松（1984）では、喜界島北部を奄美大島方言、徳之島方言などと一緒にして北奄美方言とし、喜界島南部を沖永良部島方言、与論島方言などと一緒にして南奄美方言としている。

図1 琉球方言の区画（中本正智・中松竹雄 1984 による）



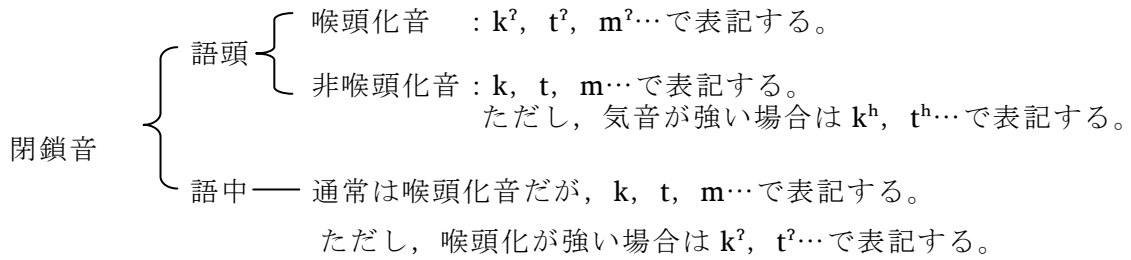
本章では、2010年9月に実施した喜界島方言の調査データをもとに、小野津、志戸桶、塩道、阿伝、上嘉鉄、坂嶺、湾、中里、荒木の9地点の音韻・音声を概観する。

## 2 用例の表記法について

以下では、喜界島方言の具体的な用例を上げながら音韻の特徴を見ていくが、最初に用例の表記の方法について説明しておく。まず、用例はすべて国際音声字母（IPA）で表記する。だれでも読めるようにするためには、カタカナを併記する必要があるが、ここではとりあえず、国際音声字母のみで表記した。

次に、表記上の注意点について述べておく。それぞれの音の詳細やバリエーション、音韻的解釈などについては、各項目のところで説明する。

- ① 母音について。従来、喜界島方言の母音は、*i*, *i̇*, *u*, *e*, *ë*, *o*, *a* の文字で表記されることが多かったが、このうち *i̇* については、本報告書では *i̇* ではなく *ɪ* を用いる。今回の調査の範囲では、「目」「手」「根」などの語にあらわれる母音の中舌性がそれほど強くなく、中舌母音の *i̇* というよりも、緩み母音の *ɪ* と考える方がよいと判断したからである。
  - ② 母音が語頭にくる場合、通常は直前に声門閉鎖音を伴う。これは「ʔ」で表記する（例：*ʔa*, *ʔi*）。ただし、語頭の声門閉鎖が弱まって発音される場合がある。そのような場合には、「ʔ」を付けずに、*a*, *i* のように表記する。
  - ③ 語頭の阻害音（閉鎖音・破擦音）には、喉頭化音（無気音）と非喉頭化音（有気音）の2種類があらわれる。また、*m* のような鼻音にも喉頭化音があらわれる。喉頭化音は、子音の右肩に「ʔ」の補助記号を付けて表記し（例：*kʔ*, *tʔ*, *mʔ*）、非喉頭化音は補助記号を付けずに表記する（例：*k*, *t*, *m*）。非喉頭化音は大なり小なり気音を伴って発音されるので、「h」の補助記号を付けて表記するという立場もあるが、すべての非喉頭化音に「h」を付けるのは煩雑であるし、「ʔ」が付いていないことによって喉頭化音と区別することができるので、原則として非喉頭化音には「h」を付けずに表記する。気音が強く聞こえる場合にのみ、子音の右肩に「h」を付けて表記する（例：*k<sup>h</sup>*, *t<sup>h</sup>*）。
  - ④ 語中では喉頭化音・非喉頭化音が対立せず、普通は喉頭化音があらわれる。従って、本来ならば語中の閉鎖音の子音すべてに「ʔ」の補助記号を付けるべきであるが、表記が煩雑になるのを避けるために、「ʔ」の補助記号は省略した。ただし、喉頭化が強い場合には「ʔ」の補助記号を付ける。その結果、語中の閉鎖音には「ʔ」が付いているものと付いていないものが混在することとなったが、両者は音韻的な違いではない。
- ③と④を図にまとめておく。



⑤ アクセントは次の記号であらわす。 [ : 音調の上がり目。 ] : 音調の下がり目。  
この他、無回答や複数回答等、用例の提示方法については以下の通り。

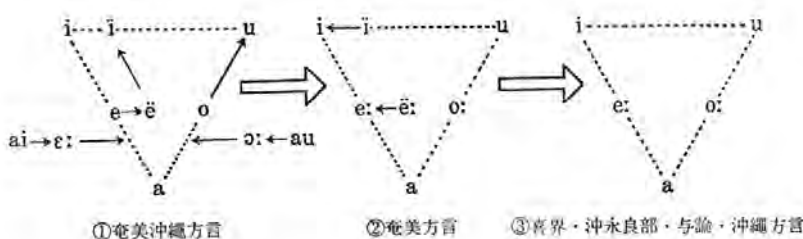
- ⑥ 調査時間の関係等で質問しなかった項目には「--」を、質問したけれども回答が得られなかった項目には「NR」を記入する。
- ⑦ 複数回答や語形に揺れがある場合、同一話者内での併用や揺れについては「/」で区切って語形を併記し、異なる話者間での違いや揺れについては「//」で区切って語形を併記する。地域による差は「・」で区切って2語を併記する。
- ⑧ 用例の項目番号は、資料集の「基礎語彙1」の項目番号である。用例を「基礎語彙2」から採った場合は、番号の最初に「2-」を付けて「2-00」のように表記する。

### 3. 喜界島方言の母音

#### 3. 1 従来の研究

従来の研究では、喜界島北部では母音が6ないし7種類、南部では5種類と言われている。中本(1976)によると、このような母音体系は次のようにして成立したという。まず、中本(1976)では、現在の琉球諸方言の母音の出発点を  $i$ ,  $u$ ,  $e$ ,  $o$ ,  $a$  の5母音においている。ここへ連母音  $au$  の融合によって  $ɔ:$  が発生し、これにより、 $o \rightarrow u$  の変化が引き起こされる。これと並行して、前舌母音でも連母音  $ai$  の融合によって  $\epsilon:$  が生じ、 $e \rightarrow \ddot{e} \rightarrow \ddot{i}$  の変化が引き起こされる。 $ɔ:$  と  $\epsilon:$  はその後、 $o:$ ,  $e:$  として定着し、 $i$ ,  $\ddot{i}$ ,  $u$ ,  $e$ ,  $o$ ,  $a$  の6母音体系ができあがる。これにさらに連母音  $ae \rightarrow \ddot{e}:$  が加わったのが、北奄美方言の7母音体系である。その後、南奄美方言では中舌性が失われ、 $\ddot{i}$  は  $i$  に合流、 $\ddot{e}$  は  $e$  に合流し、 $i$ ,  $u$ ,  $e$ ,  $o$ ,  $a$  の5母音体系ができあがった(図4参照)。

図2 奄美沖縄方言の母音の推移(中本1976より)



### 3. 2 母音の特徴

母音の種類は、喜界島北部では7種類、喜界島南部では5種類である。ただし、表記法の箇所で述べたように、「目」「手」「根」などの語にあらわれる母音は、それほど中舌性が強くない。従って、以下では *i* で表記する。また、同じ地域でも、直前の子音との関係で母音の発音が異なる場合がある。以下、9地点の母音を比較しながら、(1)狭母音、(2)半広母音、(3)広母音の順で見よう。

#### (1) 狭母音

狭母音は、北部の小野津、志戸桶では *i*, *ɪ*, *u* の3種類、それ以外の地域では *i*, *u* の2種類である。まず、北部でも南部でも *i* であらわれる語を表 1.1~表 1.5 にあげる。

これらの *i* は、東京方言の *i* に対応している。ただし、志戸桶では表 1-1 の「実」、「網」にみられるように、両唇音 *m* のあとでは *ɪ* があらわれることがある。また、表 1-5 の「汗」「風」の *i* は、東京方言の *e* に対応している（網掛け部分）。

表 1-1 母音 *i*

項目番号 地域	7	6	101	118	162	131	177
	日	実	耳	網	味噌	波	海
①小野津	[pi	[mi]:	mi[mi	a[mi	mi[su	na[mi	?u[mi
②志戸桶	ti[da	[mɪ]:	mi[mi	?a[mɪ	mi[su	na[mi	[?u]mi
③塩道	[ti]da(太陽)	mi[:	mi[mi	a[mi	mi[su	na[mi	[?u]mi
④坂嶺	[pi]:	[mi]:	mi[mi	?a[mi	mi[su	na[mi	[?u]mi
⑤阿伝	[ti]da(太陽)	mi[:	mi[mi	a[mi	mi[su	na[mi	[?u]mi
⑥上嘉鉄	çi	na[ri	mi[mi	?a[mi	mi[su	na[mi	[?u]mi
⑦湾	--	mi[:	mi[mi	?a[mi	mi[su	na[mi	[?u]mi
⑧中里	çi[: / [çi]:	mi[:	mi[mi	?a[mi	mi[su	na[mi	[?u]mi
⑨荒木	çi[:	mi[:	mi[mi	a[mi	mi[su	na[mi	[u]mi

表 1-2 母音 *i*

項目番号 地域	83	48	199	2	66	76
	紙	首	足袋	血	道	蜂
①小野津	[ha]bi	[nu]bu[i	ta[bi	[tɕ <sup>2</sup> i]:	[mi]tɕi	[pa]tɕi
②志戸桶	ha[bi	[k <sup>2</sup> u]bi	[ta]bi	[tɕi]: / [tɕi:	[mi]tɕi	[pa]tɕi
③塩道	ha[bi	k <sup>2</sup> u[bi	[ta]bi	tɕ <sup>2</sup> i[:	mi[tɕi	pa[tɕi
④坂嶺	ha[bi	k <sup>2</sup> u[bi	[ta]bi	tɕi[:	--	--
⑤阿伝	ha[bi	nu[bi]:	[ta]bi	tɕi[:	mi[tɕi	p <sup>h</sup> a[tɕi
⑥上嘉鉄	ha[bi	k <sup>2</sup> u[bi	[t <sup>h</sup> a]bi	tɕi[:	mi[tɕi	[ha]tɕi[:
⑦湾	--	k <sup>2</sup> u[bi	[t <sup>h</sup> a]bi	tɕ <sup>2</sup> i[:	mi[tɕi	--
⑧中里	ha[bi	k <sup>2</sup> u[bi	[t <sup>h</sup> a]bi	tɕ <sup>2</sup> i[:	mi[tɕi	[ha]tɕi[:
⑨荒木	ha[bi	k <sup>2</sup> u[bi	ta[bi	tɕi[:	mi[tɕi	[ha]tɕi[:

表 1-3 母音 i

項目番号 地域	項目番号 単語				
	16	36	153	38	64
	荷	蟹	鬼	蟻	釘
①小野津	[n <sup>h</sup> i]mu[tsu	ga[n <sup>h</sup> i]:	?u[n <sup>h</sup> i	[a]:[n <sup>h</sup> i]:	[k <sup>h</sup> u]n <sup>h</sup> i
②志戸桶	n <sup>h</sup> i[:	ga[n <sup>h</sup> i]:	[?u]n <sup>h</sup> i	[?a]:[n <sup>h</sup> i]:	k <sup>h</sup> u[n <sup>h</sup> i
③塩道	n <sup>h</sup> i[:	ga[n <sup>h</sup> i]:	?u[n <sup>h</sup> i	[a]:[n <sup>h</sup> i]:	k <sup>h</sup> u[n <sup>h</sup> i
④坂嶺	n <sup>h</sup> i[:	ga[n <sup>h</sup> i]:	?u[n <sup>h</sup> i	[?a]:[n <sup>h</sup> i]:	k <sup>h</sup> u[n <sup>h</sup> i
⑤阿伝	--	[gai]n	u[n <sup>h</sup> i	[a]:[ī]:	k <sup>h</sup> u[gi
⑥上嘉鉄	n <sup>h</sup> i[:	ga[i]:	?u[n <sup>h</sup> i	?a[i	k <sup>h</sup> u[gi
⑦湾	n <sup>h</sup> i[:/n <sup>h</sup> i[mu]tu	ga[n <sup>h</sup> i]:	o[n <sup>h</sup> i	?a[n <sup>h</sup> i	--
⑧中里	n <sup>h</sup> i[:	ga[n <sup>h</sup> i]:	?u[n <sup>h</sup> i	a[n <sup>h</sup> i	k <sup>h</sup> u[n <sup>h</sup> i
⑨荒木	n <sup>h</sup> i[:	ga[n <sup>h</sup> i]:	o[n <sup>h</sup> i	a[n <sup>h</sup> i	ku[gi]/ku[ŋi

表 1-4 母音 i

項目番号 地域	項目番号 単語			
	49	125	32	252
	傷	時	右	兎
①小野津	[k <sup>h</sup> i]zu	[tu]ki	n <sup>h</sup> i[n <sup>h</sup> i]:	[u]sa[gi
②志戸桶	[k <sup>h</sup> i]zu	tu[ki	[mi]ŋi	[?u]sa[ŋi
③塩道	k <sup>h</sup> i[zu	NR	[mi]gi	u[sa]gi
④坂嶺	k <sup>h</sup> i[ɬu	t <sup>h</sup> u[ki	[mi]gi	--
⑤阿伝	tɕi[du	tu[ki	[mi]gi	?u[sa]gi
⑥上嘉鉄	tɕi[du	[du]tɕi[:	[mi]gi	?u[sa]gi
⑦湾	tɕi[du	NR	[mi]gi	u[sa]gi
⑧中里	tɕi[zu	--	mi[gi	[?usagi
⑨荒木	ki[zu	tu[ki	mi[gi	u[sa]gi

表 1-5 母音 i

項目番号 地域	項目番号 単語				
	161	31	197	96	75
	汁	腰, 後ろ	汗	肘	風
①小野津	ɕi[ru	[hu]ɕi	a[ɕi	[pi]zi/[phi]zi	[ha]zi
②志戸桶	ɕi[ru	[hu]ɕi	?a[ɕi	pi[zi	[ha]zi
③塩道	ɕi[ru	hu[ɕi	a[ɕi	pi[zi	ha[di
④坂嶺	ɕi[ru	hu[ɕi	?a[ɕi	pi[ɬi	--
⑤阿伝	ɕi[ru	hu[ɕi	?a[ɕi	ɕi[zi	ha[di
⑥上嘉鉄	ɕi[ru	[ɸu]ɕi	?a[ɕi	ɕi[zi	ha[di
⑦湾	ɕi[ru	hu[ɕi	?a[ɕi	ɕi[zi	--
⑧中里	ɕi[ru	ɸu[ɕi/hu[ɕi	?a[se	ɕi[zi	ha[di
⑨荒木	ɕi[ru	ɸu[ɕi	a[ɕi	ɕi[zi	ha[zi

次に、喜界島北部の小野津、志戸桶で i, 他の地域で i があらわれる語をあげる。

表 2-1 母音 i・i

項目番号 単語	14	12	203	114	122
地域	屁	目	雨	豆	瓶
①小野津	pi[:/φi[:	mi[:	a[mi	ma[mi	ha[mi
②志戸桶	pi[:	mi[:	?a[mi	ma[mi	ha[mi
③塩道	pi[:	mi[:	a[mi	ma[mi	[ha]mi
④坂嶺	φi[:	mi[:	?a[mi	ma[mi	[ha]mi
⑤阿伝	pi[:/φi[:	mi[:	a[mi	ma[mi	[ha]mi
⑥上嘉鉄	çi[:	mi[:	?a[mi	ma[mi	ha[mi
⑦湾	çi[:	mi[:	?a[mi	ma[mi	[ha]mi
⑧中里	çi[:	mi[:	?a[mi	ma[mi/ma[mi	[ha]mi
⑨荒木	çi[:	mi[:	a[mi	ma[mi/ma[me	[ha]mi

表 2-2 母音 i・i

項目番号 単語	11	233	73	259	247	148
地域	手	表	筆	百足	情け	怪我
①小野津	ti[:	[u]mu[ti	pu[di	[mu]ka[zi	[na]sa[kɪ	kɪ[ga
②志戸桶	ti[:	[u]mu[ti	[φu]di	[mu]ka[di	[na]sa[kɪ	kɪ[ga
③塩道	ti[:	[u]mu[ti	pu[di/φu[di	mu[ka]di	na[sa]ki	ki[ga
④坂嶺	ti[:	[?u]mu[ti	--	nu[ka]de	--	kɪ[ga
⑤阿伝	ti[:	[?u]mu[ti	φu[di	[a]mi[da]:	NR	--
⑥上嘉鉄	ti[:	[?u]mu[ti	φu[di	mu[ka]de	na[sa]ki	k <sup>h</sup> i[ga
⑦湾	t <sup>h</sup> i[:	[?u]mu[ti	φu[de	mu[ka]di	NR	--
⑧中里	t <sup>h</sup> i[:	[?u]mu[ti	φu[di	[mu]ka[di	--	ki[ga/kɪ[ga
⑨荒木	ti[:	[u]mu[ti	φu[di	mu[ka]de	--	ke[ga

表 2-3 母音 i・i

項目番号 単語	24	89	102	105	165	188
地域	根	胸	骨	脛	船	種
①小野津	ni[:	[mu]ni	pu[ni/φu[ni	su[ni	pu[ni	ta[ni
②志戸桶	ni[:	[mu]ni	pu[ni]:	su[ni	φu[ni	ta[ni
③塩道	[hiN] pi[n <sup>h</sup> i]: (木の根の毛)	mu[ni	φu[ni]:	[muke]zu[ne (向こう脛)	[φu]ni	ta[ni
④坂嶺	ni[:/[mu]tu	mu[ni	[p <sup>h</sup> u]ni	[su]ni	[p <sup>h</sup> u]ni	t <sup>h</sup> a[ni
⑤阿伝	ni[:	mu[ni	φu[ni	su[ni	[φu]ni	ta[ni
⑥上嘉鉄	[ni]mu[tu	mu[ni	[φu]ni	su[ni	φu[ni	t <sup>h</sup> a[ni
⑦湾	ni[:	mu[ni	[φu]ni	su[ne	[φu]ni	t <sup>h</sup> a[ni
⑧中里	ni[mutu	mu[ni	[φu]ni	su[ni	[φu]ni	ta[ni
⑨荒木	mu[tu(元)	mu[ne	[φu]ni	su[ne	[φu]ni	ta[ne

小野津、志戸桶の **i** は、東京方言の **e** に対応している。前述のとおり、従来の報告書では、この母音は **i** で表記される場合が多かったが、喜界島方言の **i** は中舌性があまり強くない。表 1.1~1.5 の **i** が張り母音であるのに対し、この母音は緩み母音の **i** である。今回の調査の範囲から **i** と **i** のミニマルペアを拾うと、小野津方言では次のようなペアをあげることができる。

**mi:(実) : mi:(目)      ami(網) : ami(雨)      pi(日) : pi:(屁)** (短母音, 長母音の違いあり)

志戸桶では先に述べたように、**m** の後では前舌狭母音が **i** になるので、ミニマルペアを探すのが難しい。ミニマルペアではないが、次のようなペアがある。

**pi:(屁) : piru(昼)      ?umi(海) : ?ami(雨)      nami(波) : mamu(豆)**

喜界島中部の塩道、阿伝、上嘉鉄、坂嶺では、**i** がほとんどあられわれず、小野津や志戸桶の **i** と **i** がどちらも **i** と発音される。従って、「実」と「目」、「網」と「雨」はそれぞれ同音になり、区別されない。

小野津, 志戸桶	<b>i</b>	<b>i</b>	<b>?ami(網)</b>	<b>?ami(雨)</b>
塩道, 阿伝, 上嘉鉄, 坂嶺	<b>i</b>	<b>i</b>	<b>?ami(網)</b>	<b>?ami(雨)</b>

喜界島南部の中里では、小野津や志戸桶の **i** には **i** が対応し、**i** には **i** ないし **i** が対応する。表 2-1「豆」、表 2-2「怪我」のように、同一語の発音が **i** と **i** の両方で発音されることから、「豆」「怪我」にあられる **i** と **i** はバリエーションの関係にあり、音韻的には対立しないと考えられる。一方、「網」などの語にあられる **i** は、中里では非常に安定していて、**i** との間を揺れることはない。従って、中里では安定した **i** と、**i** ないし **i** の間を揺れる **i/i** があることになる。ただし、子音 **n** の後では **i/i** ではなく、**i** で安定している（表 2-3 の「胸」「骨」「脛」「船」「種」）。これについては後に述べる。

小野津	<b>i</b>	<b>i</b>	<b>ami(網)</b>	<b>mamu(豆)</b>	<b>puni(船)</b>
中里	<b>i</b>	<b>i/i</b>	<b>?ami(網)</b>	<b>mami/mamu(豆)</b>	<b>φuni(船)</b>

南部の湾、荒木では、小野津や志戸桶の **i** が、**i** ないし **e** で発音される。**e** は共通語的な発音があられたのかもしれないが、他の集落ではこれらの単語に **e** があられることはないので、湾、荒木の特徴としてあげておく。また、直前の子音が **n** の場合には **i** があられる。**n** の後の **i** については、中里の **i** とあわせて後に述べる。

小野津	<b>i</b>	<b>i</b>	<b>ami(網)</b>	<b>mamu(豆)</b>	<b>puni(船)</b>
荒木	<b>i</b>	<b>i/i/e</b>	<b>ami(網)</b>	<b>mami/mame(豆)</b>	<b>φuni(船)</b>



以上の喜界島諸方言の前舌狭母音の状況をまとめておこう。

東京	i	e	ami(網)	ame(雨)	ϕune(船)
小野津, 志戸桶	i	ɪ	ami(網)	ami(雨)	ϕuni(船)
塩道, 阿伝, 上嘉鉄, 坂嶺	i	i	?ami(網)	?ami(雨)	ϕuni(船)
中里	i	i/ɪ	?ami(網)	mami/mami(豆)	ϕuni(船)
湾, 荒木	i	i/ɪ/e	ami(網)	mami/mame(豆)	ϕuni(船)

次に、先に保留した子音 **n** の後の **i**, **ɪ** について見てみよう。先に述べたように、小野津、志戸桶の **ɪ** は、中里で **i/ɪ**、湾、荒木では **i/e** であらわれるが、**n** の後に限っては、中里、湾、荒木とも **ɪ** で安定している。つまり、中里、湾、荒木でも **n** の後では小野津、志戸桶と同じように、前舌母音に **i** と **ɪ** の2種類の母音があらわれるのである。

	「荷」	「蟹」	「鬼」	:	「根」	「胸」	「船」
小野津	n <sup>j</sup> inutsu	gan <sup>j</sup> i:	?un <sup>j</sup> i	:	ni:	muni	puni
中里	n <sup>j</sup> i:	gan <sup>j</sup> i:	?un <sup>j</sup> i	:	nimutu	muni	ϕuni
湾	n <sup>j</sup> i:	gan <sup>j</sup> i:	on <sup>j</sup> i	:	ni:	muni	ϕuni
荒木	n <sup>j</sup> i:	gan <sup>j</sup> i:	on <sup>j</sup> i	:	(mutu)	mune	ϕuni

それと同時に、各地とも母音 **i** の前では **n** の子音が口蓋化して **n<sup>j</sup>** になっている。つまり、**n<sup>j</sup>i** と **ni** は母音の違いによって区別されていると同時に、子音の口蓋化の有無によっても区別されているのである。

**n** の口蓋化の有無という点でいえば、**i** と **ɪ** の区別を持たない塩道、阿伝、上嘉鉄、坂嶺でも子音が **n** の場合には、子音の口蓋化の有無によって「荷」と「根」が区別されている。

	「荷」	「蟹」	「鬼」	:	「根」	「胸」	「船」
塩道	n <sup>j</sup> i:	gan <sup>j</sup> i:	?un <sup>j</sup> i	:	(hin pin <sup>j</sup> i:)	muni	ϕuni:
阿伝	--	(gain)	u[n <sup>j</sup> i	:	ni[:/nimutu	muni	ϕu[ni
上嘉鉄	n <sup>j</sup> i:	(gai:)	?u[n <sup>j</sup> i	:	nimutu	muni	ϕuni
坂嶺	n <sup>j</sup> i:	gan <sup>j</sup> i:	?u[n <sup>j</sup> i	:	ni:	muni	p <sup>h</sup> uni

ちなみに、話者は「荷」と「根」の発音の違いを明確に意識しており、調査者が「根」の発音をまねるときに、少しでも **n** が口蓋化していると、OKが出ない。また、岩倉(1941) (早町村阿伝集落を中心とする言葉) では、「「ネィ」は [ni] で荷物等の「ニ」と区別がある」(岩倉 1941: 18) と述べられている。

以上を整理すると、以下のようになる。

「荷・蟹・鬼」等 : 「根・胸・骨」等

小野津, 志戸桶	nʲi	:	ni
塩道, 阿伝, 上嘉鉄, 坂嶺	nʲi	:	ni
中里, 湾, 荒木	nʲi	:	ni

小野津, 志戸桶に関しては, 直前がどのような子音であっても i と ɪ の 2 種類の母音があらわれるので, nʲi と ni の区別も, 母音の違いによるところが大きいと考えられる。これと対照的なのが塩道, 阿伝, 上嘉鉄, 坂嶺で, これらの地域ではどのような子音の後でも, 前舌狭母音には i の 1 種類しかあらわれない。従って, nʲi と ni の区別は, 子音の口蓋化の有無 (nʲ と n) によって行われていることになる。

南部の中里, 湾, 荒木に関しては, nʲi と ni の区別を母音の違いが支えているのか, 子音の口蓋化の有無が支えているのか, 両方の解釈の可能性があるが, 中里では不安定ながら, n 以外の子音の後でも ɪ があらわれる。従って, nʲi と ni の違いにも母音の違いが関与しているのよと考えるのがよいと思われる。それに対し, 湾, 荒木では n 以外の子音の後では ɪ があらわれない。そうすると, ni のためだけに母音の種類を 1 つ増やすよりも, n の口蓋化の有無が nʲi と ni の区別を支えていると考える方がよいと思う。

喜界島南部方言の n の口蓋化については, すでに大野(2002)に次のような指摘がある。「この音声実態は以下(湾方言の語例)に示すとおり母音の実質による対立というよりは, 子音部分の口蓋化の有無による対立と見なすことができる。

ニ : ni:(荷) piku(肉) kupi(釘)

ネィ : ni:(根) hani(金) muni(胸) 」(大野 2002 ; 6)

歴史的には,

- ① 小野津, 志戸桶のように, どのような子音の後でも母音 i と ɪ が対立する体系。
- ② ɪ > i の変化が進むが, まだ完全には ɪ が i に合流せず, ɪ と i を揺れている中里のような状態 (ただし, n の後では ɪ)。
- ③ ɪ > i の変化がさらに進み, n の後を除いて ɪ が i へ合流した湾, 荒木のような状態。
- ④ n の後でも ɪ > i の変化が進み, ɪ が完全に i に合流した塩道, 阿伝, 上嘉鉄, 坂嶺のような状態。n の後では子音の口蓋化の有無の違い (nʲ と n) に i と ɪ の違いが反映されている)。

のような経緯をたどったものと思われる。次には以下のような段階が予想される。

- ⑤ ɪ が完全に i に合流し, n の後でも ɪ と i の違いの痕跡をとどめない状態。

次に、後舌狭母音の u について見てみよう。喜界島方言の u は、東京方言の u と o に対応している。地域によっては o があらわれることがある（表 3-2 の網掛け部分）が、共通語的な発音が回答されたものと思われる。また、ワ行のヲに由来する音が wu または gu であらわれることがある（表 3-3 の網掛け部分）。

表 3-1 母音 u

項目番号 地域	40	86	133	177	59	89
	牛	歌	馬	海	虫	胸
①小野津	[ʔu]çi	[ʔu]ta	u[ma	ʔu[mi	[mu]çi	[mu]ni
②志戸桶	[ʔu]çi	[ʔu]ta	ʔu[ma	[ʔu]mi	[mu]çi	[mu]ni
③塩道	u[çi	ʔu[ta	ʔu[ma	[ʔu]mi	mu[çi	mu[ni
④坂嶺	ʔu[çi	ʔu[ta	[m <sup>2</sup> a	[ʔu]mi	--	mu[ni
⑤阿伝	u[çi	u[ta	[m <sup>2</sup> a	[ʔu]mi	mu[çi	mu[ni
⑥上嘉鉄	ʔu[çi	ʔu[ta	[m <sup>2</sup> a	[ʔu]mi	mu[çi	mu[ni
⑦湾	ʔu[çi	ʔu[ta	[m <sup>2</sup> a	[ʔu]mi	mu[çi	mu[ni
⑧中里	ʔu[çi	ʔu[ta	[maʔ	[ʔu]mi	mu[çi	mu[ni
⑨荒木	u[çi	u[ta	[m <sup>2</sup> a	[u]mi	mu[çi	mu[ne

表 3-2 母音 u

項目番号 地域	85	112	8	151	194	100	31	115
	音	親	藻	物	腿	肝	腰, 後ろ	米
①小野津	[ʔu]tu	[tu]zitu(母父)	[mu]:	mu[nu	mu[mu	k <sup>2</sup> i[mu	[hu]çi	hu[mi
②志戸桶	[ʔu]tu	ʔu[ja	[mu]:	[mu]N	mu[mu	k <sup>2</sup> i[mu	[hu]çi	hu[mi
③塩道	u[tu	ʔu[ja	mu[:	mu[N	mu[mu	tɕ <sup>2</sup> i[mu	hu[çi	hu[mi
④坂嶺	ʔu[tu	u[ja	mu[:	mu[nu	mu[mu	tɕi[mu	ɸu[çi	ɸu[mi
⑤阿伝	u[tu	--	mo[:	NR	--	tɕi[mu	ɸu[çi	ɸu[mi
⑥上嘉鉄	ʔu[tu	ʔu[ja	--	mu[N	mu[mu	tɕi[mu	ɸu[çi	ɸu[mi
⑦湾	ʔu[tu	u[ja	mu[:	--	mu[mu	--	ɸu[çi	hu[mi
⑧中里	ʔu[tu	ʔu[ja	--	mu[N	mu[mu	tɕ <sup>2</sup> i[mu	ɸu[çi/ hu[çi	ɸu[mi/ ɸu[mi
⑨荒木	o[to	u[ja	mo[:	mu[N	tɕi[mu	ku[mu	ɸu[çi	ɸu[mi

表 3-3 母音 u

項目番号 地域	34 夫	38 女	36 叔母	33 叔父	175 おととい
①小野津	[u]tu	[u]na[ŋu]	u[ba]:	u[ɕi]:	?ut[t <sup>2</sup> i]:
②志戸桶	[u]tu	[u]na[ŋu]	[?u]ba[kkɪ(:), [?u]ba	[?u]N[muɰi]:	[wu]t[ti]:
③塩道	wu[t <sup>2</sup> u	[wu]na[gu]	[?a]N[ma]: / ?a[ni]:	[k <sup>2</sup> i]N[k <sup>2</sup> a]:	wut[t <sup>2</sup> i]: / [wu]t[ti]:
④坂嶺	gu[tu	[gu]na[ŋu]	?u[ba]:	?u[zi]:	[gu]t[t <sup>h</sup> i]:
⑤阿伝	gu[tu	[gu]na[u	gu[ba	gu[ɕi	--
⑥上嘉鉄	?u[tu	[wu]na[u	wu[ba	?u[ɕi	?ut[ti]:
⑦湾	wu[tu	[wu]na[gu]	wu[ba]:	wu[ɕi]:	wut[t <sup>2</sup> i]:
⑧中里	?u[tu	[?u]na[gu]	?o[ba]: / ?u[ba	?u[ɕi]:	?ut[t <sup>2</sup> i]:
⑨荒木	?u[tu	[?u]na[ɰu	?o[ba]:	?u[ɕi]:	--

(2) 半広母音

半広母音の種類は、喜界島北部の小野津，志戸桶では e, ɛ, o の3種類，それ以外の地域では e, o の2種類である。これらは，長母音としてあらわれるのがほとんどで，歴史的には連母音の融合により生まれたものである。表4，表5に e と ɛ の例をあげておく。

表 4 母音 e

項目番号 地域	47 酒	58 竹	2-40 兄弟	104 腕	185 苗	91 口蓋
①小野津	[se]:	[de]:	[k <sup>2</sup> o]:[de]:	u[di	ne[:	[?u]tuŋe[:
②志戸桶	[se]:	[de]:	--	[gu]te[:	ne[:	[?a]gu
③塩道	se[: / ɕe[:	de[:	[ɕo]:[de]:	[gu]te[:	ne[:	?a[gu
④坂嶺	se[:	de[:	[so]:[de]:	?u[di	ne[:	?a[gu
⑤阿伝	se[:	de[:	[so]:[de]:	ti[:	ne[:	[u]tu[je]:
⑥上嘉鉄	se[:	de[:	[so]:[de]:	?u[di / [gu]te[:	ne[:	[?a]gu
⑦湾	se[:	de[:	[so]:[de]:	?u[di	na[e	?a[gu
⑧中里	se[: / ɕe[:	de[:	[so]:[de]:	[gu]te[:	--	?a[gu
⑨荒木	ɕe[:	de[:	[so]:[de]:	u[de / [gu]te[:	na[e	a[go

表5 母音 *ë*

項目番号 単語	68	202	210	2-156
地域	蠅	前	額	南風
①小野津	[pë]:	më[:	[më]:[tɕa]:	[ɸe:niçi
②志戸桶	[ɸë]:/[pë]:	më[:	[më]:[tɕi]:	ɸë[:/[ɸë]nka[ɸi
③塩道	he[:	[me]:	[metɕi:]//[me]:[tɕi]:	p <sup>h</sup> e[:
④坂嶺	pe[:	[me]:	[mi]k[ko]:	[pe]:
⑤阿伝	pe[:/ɸe[:	[me]:	--	[ɸe]:
⑥上嘉鉄	he[:	[me]:	mit[tɕe]:	[he]:
⑦湾	he[:	[me]:	[mittɕe]:	[hen]ka[di]:
⑧中里	he[:	[me]:	mit[tɕe]:	[hë]:
⑨荒木	he[:	[me]:	mit[tɕe]:	--

表4の「酒」「竹」は語中の *k* が *x* になり、*x* の摩擦が弱まった結果、母音連続が生じたもの (\*sake > \*saxe > \*sae > \*së: > se:, \*dake > \*daxe > \*dae > \*dë: > de:), 「腕」の gute: は \*gotai (五体) を語源とする語, 「口蓋」の ?utuɲe: は \*otoɲai (おとがい) を語源とする語, 「南風」の ɸe:, ɸë: は \*pae (はえ) を語源とする語で、いずれも ae, ai をもととしている。「額」の語源はよく分からないが、「まえひたい」か。

小野津と志戸桶では、直前の母音が両唇音 *p*, *m*, *ɸ* の場合に *ë*: (表5の網掛け部分) があられやすく、それ以外の子音の後では *e*: があられやすいようである (表4)。

次に、*o* は次のような語にあられる。やはり、ほとんどが長母音で、歴史的には、*au*, *ao* などの連母音の融合により生じたもの (「蛸」は \*tako > \*taxo > \*tao > to:), あるいは漢語由来の語である。

表6-1 母音 *o*

項目番号 単語	213	245	123	137
地域	麴(こうじ)	箒	竿	蛸(たこ)
①小野津	[ho]:[ɕi	[ho]:[ki	[so]:de[:(竿竹)	to[:
②志戸桶	[ho]:[ɕi	[po]:[ki	[de]: (竹)	to[:
③塩道	[ho:]ɕi	[ɸo]:[tɕi	[so]:[de]:/de[:	to[:
④坂嶺	ho[:]ɕi	[po:]tɕi	sa[o	to[:
⑤阿伝	ho[:]ɕi	po[:]tɕi/h[:]tɕi	de[:	to[:
⑥上嘉鉄	[ho]:[ɕi	ho[:]tɕi	de[:	t <sup>h</sup> o[:
⑦湾	[ho:]ɸi	ho[:]tɕi	[so]:[de]:	--
⑧中里	[ho:]ɕi	ho[:]tɕi	--	to[:]/[to:
⑨荒木	[ho:]ɕi/h[:]ɕi	ho[:]tɕi	de[:	to[:

表 6-2 母音 o

項目番号 地域	2-40	2-45	2-83
	兄弟	親戚	門
①小野津	[kʲo]:[de]:	[ɸa]ro:[ɕi]:	ɕo[:
②志戸桶	--	[ha]ro:[ɕi]:	ɕo[:
③塩道	[ɕo]:[de]:	p <sup>h</sup> a[ro]:ɕi	[ɕo:
④坂嶺	[so]:[de]:	pa[ro]:[zi]:	[ɕo]:
⑤阿伝	[so]:[de]:	[ɸa]ro:[ɕi	[ɕo]nku[ɕi]:/[ɕo]:
⑥上嘉鉄	[so]:[de]:	[haro]:[ɕi]:/[so:de]N[ɕa]:	[ɕo]:
⑦湾	[so]:[de]:	[haro]:[ɕi]:	[ɕo]:
⑧中里	[so]:[de]:	[haro]:[ɕi]:	[ɕo]:
⑨荒木	[so]:[de]:	ha[ro]:[ɕi]:	[ɕo]:

(3) 広母音

広母音はどの地域でも a の 1 種類である。表 7 に例をあげる。

表 7 母音 a

項目番号 地域	9	10	37	42	70	128
	葉	名	粥	金	鼻	山
①小野津	[pa]:	[na]:	ka[i]:	[ka]ne	[pa]na	ja[ma
②志戸桶	[pa]:	[na]:	ka[i]:	[ha]ni	[pa]na	ja[ma
③塩道	pa[:	na[:	ka[i	NR	pa[na	ja[ma
④坂嶺	pa[:/ ɸa[:	na[:	ka[ju	ha[ni]/xa[ni	--	ja[ma
⑤阿伝	pa[:	na[:	ka[i	ha[ni	p <sup>h</sup> a[na	ja[ma
⑥上嘉鉄	ha[:	na[:	[k <sup>h</sup> a]i]:	ha[ni	ha[na	ja[ma
⑦湾	ha[:	[na]ma[i	k <sup>h</sup> a[i	ha[ni	ha[na	ja[ma
⑧中里	ha[:	na[:	k <sup>h</sup> a[i]/k <sup>h</sup> a[ju	ha[ni	ha[na	ja[ma
⑨荒木	ha[:	[na]ma[i	[ka]i]:	ha[ni]/ha[ni	ha[na	ja[ma

### 3. 3 喜界島諸方言の母音音素目録

喜界島各地の母音の音素目録を以下にあげておく。

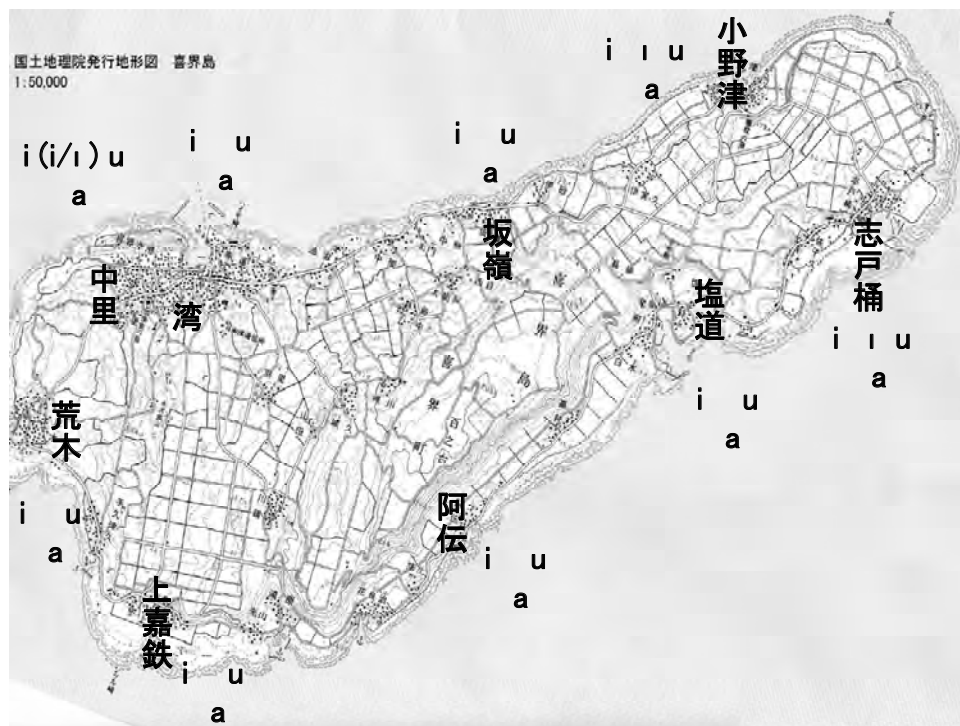
#### 短母音

小野津, 志戸桶	中里	塩道, 阿伝, 上嘉鉄, 坂嶺, 湾, 荒木
i    ɪ    u	i (i/ɪ)    u	i            u
a	a	a

#### 長母音

小野津, 志戸桶	中里	塩道, 阿伝, 上嘉鉄, 坂嶺, 湾, 荒木
i        ɪ:        u:	i: (i:/ɪ:)    u:	i:            u:
e:    ë:    o:	e:        o:	e:        o:
a:	a:	a:

図5 喜界島諸方言の母音体系（短母音）



## 4 喜界島方言の子音

### 4.1 両唇音

(4) 両唇閉鎖音 (両唇摩擦音) p b φ

両唇閉鎖音には p, b の2種類, 両唇摩擦音には φがある。

まず, p と φ は母音 a, i, ɪ, u, e, ɛ, o の前にあらわれる。用例を表 8-1~8-4 にあげる。

表 8-1 両唇閉鎖音 p / 摩擦音 φ

項目番号 地域	9 葉	13 齒	33 羽	69 箱	7 日	72 髭
①小野津	[pa]:	pa:	[pa]nɪ	[pa]ku	[pi	[pi]nɪ
②志戸桶	[pa]:	pa:	[pa]nʲi	pa[ku	ti[da	[pi]nʲi / [pi]ŋi
③塩道	pa:	pa:	pa[ni / pa]nʲi	pa[ku	[ti]da	pi[nʲi
④坂嶺	pa: / φa:	pa: / φa:	pa[ni	--	[pi]:	pi[ni
⑤阿伝	pa:	pa:	pa[ni	p <sup>h</sup> a[ku	[ti]da	p <sup>h</sup> i[gi]:
⑥上嘉鉄	ha:	ha:	ha[ni	ha[ku	çi	çi[gi
⑦湾	ha:	ha:	ha[nɪ	--	--	--
⑧中里	ha:	ha:	ha[nʲi	ha[ku	çi: / [çi]:	çi[nʲi / φi]ŋɪ
⑨荒木	ha:	[ha:	ha[ni / hanɪ	ha[ku	çi:	çi[nɪ

表 8-2 両唇閉鎖音 p / 摩擦音 φ

項目番号 地域	96 肘	249 左	14 屁	166 篋	68 蠅	245 箒
①小野津	[pi]zi / [φi]zi	[pi]za[i	pi: / φi:	he[ra	[pɛ]:	[ho]:[ki
②志戸桶	pi[zi	pi[da]i	pi:	pi[ra / φi]ra	[φɛ]: / [pɛ]:	[po]:[ki
③塩道	pi[zi	pi[da]i	pi:	NR	he:	[φo]:[tɕi
④坂嶺	pi[dzi	pi[za]i	φi:	[pi]ra	pe:	[po]:tɕi
⑤阿伝	çi[zi	φi[da]i	pi: / φi:	[pi]ra	pe: / φe:	po[:]tɕi / ho[:]tɕi
⑥上嘉鉄	çi[zi	çi[da]ri	çi:	NR	he:	ho[:]tɕi
⑦湾	çi[zi	çi[da]ri	çi:	sa[zi(匙)	he:	ho[:]tɕi
⑧中里	çi[zi	çi[da]ri	çi:	çi[ra	he:	ho[:]tɕi
⑨荒木	çi[zi	çi[da]ri	çi:	NR	he:	ho[:]tɕi



表 8-3 両唇閉鎖音 p, 摩擦音 φ

項目番号 単語	73	95	165	227	146
地域	筆	冬	船	袋	節
①小野津	pu[di	[p <sup>ʰ</sup> u]ju	pu[nɪ	puk[ku/φuk[ku	φu[çi
②志戸桶	[φu]dɪ	[φu]ju	φu[nɪ	φuk[ku	[pu]çi
③塩道	pu[di/φu[di	φu[ju	[φu]ni	[φuk]ku	bu[çi//pu[çi
④坂嶺	--	pu[ju	[p <sup>h</sup> u]ni	[puk]ku	pu[çi
⑤阿伝	φu[di	φu[ju	[φu]ni	[φuk]ku	--
⑥上嘉鉄	φu[di	φu[ju	φu[ni	[φuk]ku	[bu]çi
⑦湾	φu[de	φu[ju	[φu]nɪ	[φuk]ku	--
⑧中里	φu[di	φu[ju	[φu]nɪ	[φuk]ku/φuk[ku	φu[çi/ bu[çi (古形?)
⑨荒木	φu[di	φu[ju	[φu]nɪ	[φuk]ku	φu[çi

表 8-4 両唇閉鎖音 p, 摩擦音 φ

項目番号 単語	4	15	54	81	102
地域	帆	穂	星	臍	骨
①小野津	[φu]:	[pu]:/[φu]:	[p <sup>h</sup> u]çi	[pu]su	pu[nɪ/φu[nɪ
②志戸桶	φu:	φu:	[φu]çi/[pu]çi	[pu]su/[φu]su	pu[nɪ]:
③塩道	φu:	[i]ninomi: (稲の実)	hu[çi	pu[su	φu[ni]:
④坂嶺	pu[:/φu[:	pu[:/φu[:	--	pu[su	[p <sup>h</sup> u]ni
⑤阿伝	φu:	φu:	φu[çi	φu[su	φu[ni
⑥上嘉鉄	φu[:/[φu]:	φu:	φu[çi	φu[su	[φu]ni
⑦湾	φu:	φu:	ho[çi	φu[su	[φu]nɪ
⑧中里	φu:	φu:	φu[çi	φu[su	[φu]nɪ
⑨荒木	ho:	ho:	φu[çi	çi[su	[φu]nɪ

p があらわれる地域は、喜界島北部の小野津、志戸桶、中部の塩道、坂嶺、阿伝で（表の網掛け部分）、南部の上嘉鉄、湾、中里、荒木ではこの位置に h があらわれる。北部の p も閉鎖性はかなり弱く、両唇摩擦音 φ と自由に交替する。また、後接する母音が u の場合、特に東京方言の o に対応する u の場合には、北部でも p より φ が出やすい（表 8-4 の「帆」「穂」「星」「臍」「骨」）。

喜界島南部では h の異音として ç と φ があらわれる。ç は後接する母音が i の場合、φ は後接する母音が u の場合にあらわれる異音である。共通語的な発音かもしれないが、荒木では「帆」「穂」などの語に ho があらわれている。

次に、b は語頭にはほとんどあられず、もっぱら語中にあらわれる。語頭の b は小野津、塩道、坂嶺、湾の bibiza: (ミミズ) などに見られるが、これは m の変化したものであ

る。語中の **b** は東京方言の **b** に対応する位置にあらわれる。後接母音は a, i, ɪ, u。以下に用例をあげる。

表 9 両唇閉鎖音 b

項目番号 地域	253 ミミズ	98 舌	106 指	2-43 子供	191 粒
①小野津	[bi]biza[ra]:	su[ba	[ju]bi	[wa]ra[bi] / [wa]ra[b <sup>w</sup> i	NR
②志戸桶	[mi]mi[za]:	su[ba	ju[bi	[wa]ra[bɪ	[tsu]bu
③塩道	[mi]mi[za]: / [bi]bi[da]:	su[ba	ju[bi	wa[ra]bi	t <sup>2</sup> u[bu
④坂嶺	[bi]bi[za]:	su[ba	ju[bi	wa[ra]bi	t <sup>2</sup> u[bu
⑤阿伝	[mi]mi[da]:	su[ba	ju[bi	wa[ra]bi	--
⑥上嘉鉄	[mi]mi[da]:	su[ba	ju[bi	--	t <sup>2</sup> u[da]: / t <sup>h</sup> u[da]:
⑦湾	[bibi]da[ra]:	su[ba	ju[bi	wa[ra]bi	tu[bu] / tu[da]:(小さい粒)
⑧中里	[mimi]nda[ja]:	su[ba	ju[bi	wa[ra]bi	--
⑨荒木	[mi]mi[za]:	su[ba	ju[bi	wa[ra]bi	tsu[bu]: / tsu[bu

(5) 両唇鼻音 m

両唇鼻音の **m** は、東京方言の **m** に対応している。母音 a, i, ɪ, u, e, ë, o の前に立ち、地域差はほとんどない。表 10-1, 10-2 に用例をあげる。「馬」では喉頭化した **m<sup>2</sup>** があらわれている（表の網掛け部分）。中里の **ma?** は、語頭の喉頭化音が語末の閉鎖として発音されたものと思われる。

表 10-1 両唇鼻音 m

項目番号 地域	109 股	114 豆	129 島	132 浜	101 耳	118 網
①小野津	ma[ta	ma[mɪ	çi[ma	pa[ma	mi[mi	a[mi
②志戸桶	ma[ta	ma[mɪ	çi[ma	pa[ma	mi[mi	?a[mɪ
③塩道	ma[ta	ma[mi	çi[ma	[pa]ma	mi[mi	a[mi
④坂嶺	ma[ta	ma[mi	çi[ma	[pa]ma	mi[mi	?a[mi
⑤阿伝	ma[ta	ma[mi	çi[ma	[pa]ma	mi[mi	a[mi
⑥上嘉鉄	ma[ta	ma[mi	çi[ma	ha[ma	mi[mi	?a[mi
⑦湾	ma[ta	ma[mi	çi[ma	[ha]ma	mi[mi	?a[mi
⑧中里	ma[ta	ma[mi] / ma[mɪ	çi[ma	ha[ma	mi[mi	?a[mi
⑨荒木	ma[ta	ma[mi] / ma[me	çi[ma	[ha]ma	mi[mi	a[mi

表 10-2 両唇鼻音 m

項目番号 単語	59	194	202	8	133
地域	虫	腿	前	藻	馬
①小野津	[mu]çi	mu[mu	më[:	[mu]:	u[ma
②志戸桶	[mu]çi	mu[mu	më[:	[mu]:	?u[ma
③塩道	mu[çi	mu[mu/at[te]:	[me]:	mu[:	?u[ma
④坂嶺	--	mu[mu	[me]:	mu[:	[m <sup>?</sup> a
⑤阿伝	mu[çi	--	[me]:	mo[:	[m <sup>?</sup> a
⑥上嘉鉄	mu[çi	mu[mu/at[te]:	[me]:	NR	[m <sup>?</sup> a
⑦湾	mu[çi	mu[mu	[me]:	mu[:	[m <sup>?</sup> a
⑧中里	mu[çi	mu[mu	[me]:	--	[ma?
⑨荒木	mu[çi	mɔ[mɔ/mo[mo	[me]:	mo[:	[m <sup>?</sup> a

#### 4. 2 歯茎音

##### (6) 歯茎閉鎖音 t t<sup>?</sup> d

歯茎閉鎖音には, t, t<sup>?</sup>, dがある。

tに後接する母音は a, i, ɪ, u, e, o。用例を表 11-1 にあげる。

表 11-1 歯茎閉鎖音 t

項目番号 単語	21	86	11	233	60	85	257	137
地域	田	歌	手	おもて	鳥	音	畑	蛸
①小野津	ta[:	[?u]ta	ti[:	[u]mu[ti	[tu]i	[?u]tu	[pa]te[:	to[:
②志戸桶	ta[:	[?u]ta	ti[:	[u]mu[ti	[tu]i	[?u]tu	[pa]te[:	to[:
③塩道	t <sup>h</sup> a[:	?u[ta	ti[:	[u]mu[ti	tu[i	u[tu	pa[te]:	to[:
④坂嶺	t <sup>h</sup> a[:	?u[ta	ti[:	[?u]mu[ti	tu[i	?u[tu	pa[te]:	to[:
⑤阿伝	ta[:	u[ta	ti[:	[?u]mu[ti	tu[i	u[tu	pa[te]:	to[:
⑥上嘉鉄	t <sup>h</sup> a[:	?u[ta	ti[:	[?u]mu[ti	t <sup>h</sup> u[ri	?u[tu	ha[te]:	t <sup>h</sup> o[:
⑦湾	t <sup>h</sup> a[:	?u[ta	t <sup>h</sup> i[:	[?u]mu[ti	t <sup>h</sup> u[ri	?u[tu	ha[te]:	NR
⑧中里	t <sup>h</sup> a[:	?u[ta	t <sup>h</sup> i[:	[?u]mu[ti/ [?umuti	t <sup>h</sup> u[i	?u[tu	ha[te]:	to[:/ [to:
⑨荒木	t <sup>h</sup> a[:	u[ta	ti[:	[u]mu[ti	tu[ri/o[ri	o[to	ha[te]:	to[:

喜界島方言の ta は東京方言の ta に, ti (北部)・ti (南部) は東京方言の te に, tu は東京方言の tu と to に対応する。te, to は tae, tao などの連母音に由来する音で, 長音であられる。後に述べるように, 東京方言の tçi に対応する音は, 喜界島でも tçi と発音されるので, 「手」と「血」は, 喜界島北部で ti: と tçi: で, 南部で ti: と tçi: で区別されている。同じく, 東京方言の tsu に対応する音は, 喜界島方言では t<sup>?</sup>u または ts<sup>?</sup>u で発音されるので, 「鳥」の第1拍目と「面」の第1拍目は, tu と t<sup>?</sup>u, または tu と ts<sup>?</sup>u で区別されている。ただし,

地域によっては「面」の t<sup>2</sup>u の喉頭化が弱まっている場合がある。その場合は「鳥」の tu と「面」の tu がほとんど同じ音になってしまう（詳しくは破擦音 ts の箇所参照）。

次に、喉頭化した t<sup>2</sup>は母音 a, i, u の前に立つ。「面」「綱」などの t<sup>2</sup>u は、地域によっては ts<sup>2</sup>u と発音されたり、t<sup>2</sup>u の喉頭化が弱まって tu に発音されたりすることもある。「鳥」の tu と「面」の t<sup>2</sup>u との関係は、上に述べたとおり。t<sup>2</sup>a, t<sup>2</sup>i は「一つ」「二つ」「二人」などの語にあらわれる。これらはもと語頭にあった pi(φi), pu(φu)が脱落した際に t に喉頭化音が生じたものである。

表 11-2 歯茎閉鎖音 t<sup>2</sup>

項目番号 地域	99	121	2-15	2-178	2-180	2-189
	面	綱	膝小僧	一つ	二つ	二人
①小野津	ts <sup>2</sup> u[ra	tu[na	tsu[bu]çi	--	--	--
②志戸桶	tçu[ra	ts <sup>2</sup> u[na	[tçu]bu[çi	[t <sup>2</sup> i]tçu	[t <sup>2</sup> a:]tçu	[t <sup>2</sup> a]i
③塩道	tu[ra	t <sup>2</sup> u[na	[t <sup>2</sup> u]bu[çi	[t <sup>2</sup> i]tu	[t <sup>2</sup> a:]tu	[t <sup>2</sup> ai
④坂嶺	tsu[ra	ts <sup>2</sup> u[na/ tu[na	[tsu]bu[çi	[t <sup>2</sup> i]tsu	[t <sup>2</sup> a]:[tsu	t <sup>2</sup> a[i
⑤阿伝	tu[ra	t <sup>2</sup> u[na	[t <sup>2</sup> u]bu[çi	--	--	--
⑥上嘉鉄	t <sup>2</sup> u[ra	t <sup>2</sup> u[na	[t <sup>2</sup> u]bu[çi	[t <sup>2</sup> i]tu	[t <sup>2</sup> a]:[tu	t <sup>2</sup> a[ri
⑦湾	tu[ra	tsu[na/ tu[na	[t <sup>2</sup> u]bu[çi	[t <sup>2</sup> i]tu	[t <sup>2</sup> a]:[tu	t <sup>2</sup> a[ri
⑧中里	t <sup>2</sup> u[ra	na[wa (縄)	[t <sup>2</sup> u]bu[çi	[t <sup>2</sup> i]tu	[t <sup>2</sup> a]:[t <sup>2</sup> u	t <sup>2</sup> a[i
⑨荒木	tsu[ra	tsu[na	[tsu]bu[çi/ [tsubuçi	[t <sup>2</sup> i]tsu	[t <sup>2</sup> a]:[tsu	t <sup>2</sup> a[ri

d は共通語の d に対応している。後接する母音は a, i, ɪ, u, e。用例を表 12 にあげる。

表 12 歯茎閉鎖音 d

項目番号 地域	46	212	55	73	178	217	58
	枝	涎	袖	筆	角(かど)	踊り	竹
①小野津	[ju]da	ju[da]i	[su]di	pu[di	[ka]du	u[du]i	[de]:
②志戸桶	[ji]da/ [ju]da	ju[da]i	[su]di	[φu]dɪ	[ka]du	?u[du]i	[de]:
③塩道	ju[da	[ju]da[i	su[di	pu[di/φu[di	ka[du	[wu]du[i	de[:
④坂嶺	ji[da	[ju]da[i	--	--	ha[du	[gu]du[i	de[:
⑤阿伝	ju[da	[ju]da[i	su[di	φu[di	ka[du	[gu]du[i	de[:
⑥上嘉鉄	ju[da	[ju]da[ri	su[di	φu[di	k <sup>h</sup> a[du	[?u]du[ri	de[:
⑦湾	ju[da	[ju]da[ri	su[di	φu[de	k <sup>h</sup> a[du	[wu]du[ri	de[:
⑧中里	ji[da/ ju[da	[ju]da[ri	su[di	φu[di	k <sup>h</sup> a[du/ su[mi(隅)	[?u]du[i	de[:
⑨荒木	ju[da	[ju]da[ri	su[di	φu[di	ka[du	[u]du[ri	de[:

dは基本的に語頭には立たないが、「竹」という語はどの地域でも de: と発音される。東京方言との対応関係は、喜界島方言の da が東京方言の da に、dɪ (北部)・di (南部) が東京方言の de に、du が東京方言の do に対応するという関係である。喜界島中・南部では、東京方言の z が d であらわれるが、これについては次の z の箇所述べる。

(7) 歯茎摩擦音 s z

歯茎摩擦音には、s, z がある。s は東京方言の s に対応する位置にあらわれる。後接母音は a, u, e, o。後接母音が i の場合には、s は歯茎後部摩擦音の ɕ になる。用例を表 13-1, 13-2 にあげる。

表 13-1 歯茎摩擦音 s

項目番号 地域	45	168	2-60	27	200	55	47
	皿	笠 傘	下駄	巢	煤	袖	酒
①小野津	[sa]ra	ha[sa	?as[sa]:	su[:	su[su	[su]di	[se]:
②志戸桶	[sa]ra	ha[sa	[?a]ssa:	su[:	su[su	[su]di	[se]:
③塩道	sa[ra	ha[sa	?aɕ[ɕa]:	su[:	[su]su	su[di	se[:/ɕe]:
④坂嶺	sa[ra	ha[sa	[?a]s[sa]:	su[:	[su]su	--	se[:
⑤阿伝	sa[ra	ha[sa	?as[sa	su[:	--	su[di	se[:
⑥上嘉鉄	sa[ra/su:]da[ra	ha[sa	?as[sa	[su]:	su[su	su[di	se[:
⑦湾	[so]:[da]ra	ha[sa	?as[sa	su[:	[su]su	su[di	se[:
⑧中里	sa[ra/[sara	ha[sa	?a[ssa	su[:	su[su	su[di	se[:/ɕe]:
⑨荒木	sa[ra	ka[sa	?as[sa]	su[:	su[su	su[di	ɕe[:

表 13-2 歯茎摩擦音 s, 歯茎後部摩擦音 ɕ

項目番号 地域	123	2-40	129	161	40	197
	竿	兄弟	島	汁	牛	汗
①小野津	[so]:de[:	[k'o]:[de]:	ɕi[ma	ɕi[ru	[?u]ɕi	a[ɕi
②志戸桶	[de]:(竹の意)	ji[:ri(男兄弟)/ [?u]tu[ɕa(女兄弟)	ɕi[ma	ɕi[ru	[?u]ɕi	?a[ɕi
③塩道	[so]:[de]:/ de[:	[ɕo]:[de]:	ɕi[ma	ɕi[ru	u[ɕi	a[ɕi
④坂嶺	sa[o	[so]:[de]:	ɕi[ma	ɕi[ru	?u[ɕi	?a[ɕi
⑤阿伝	de[:	[so]:[de]:	ɕi[ma	ɕi[ru	u[ɕi	?a[ɕi
⑥上嘉鉄	de[:/ [de]:[ma]:(釣り竿)	[so]:[de]:	ɕi[ma	ɕi[ru	?u[ɕi	?a[ɕi
⑦湾	[so]:[de]:	[so]:[de]:	ɕi[ma	ɕi[ru	?u[ɕi	?a[ɕi
⑧中里	--	[so]:[de]:	ɕi[ma	ɕi[ru	?u[ɕi	?a[se
⑨荒木	de[:	[so]:[de]:	ɕi[ma	ɕi[ru	u[ɕi	a[ɕi

s は地域による違いが比較的少ない。ただし、塩道では、他の地域の sa, se, so を  $\zeta a$ ,  $\zeta e$ ,  $\zeta o$  と発音する傾向がある（表の網掛け部分）。表 13-2 の「汗」は、東京方言との対応関係からいうと、北部では  $\text{ʔasi}$ 、南部では  $\text{ʔasi}$  が予想されるところだが、実際には北部でも南部でも  $\text{ʔa}\zeta i$  になっている。ちなみに、言語地理学定例研究会(1986)では、「汗」に対して長嶺で  $\text{ʔa}\zeta i$ 、早町・中熊で  $\text{ʔasi}$ 、池治で  $\text{ʔasi}$ ,  $\text{ʔa}\zeta i$  が報告されている（ただし、「研究者個人ごとの表記方法の若干のくいちがいをふくんでいるばあいがある」(p.7)という）。

次に、z は東京方言の z に対応する位置にあらわれる。後接母音は a, i, u。i の前では歯茎後部の  $\zeta i/\zeta i$  であらわれる。表 14-1, 14-2 に例をあげる。

表 14-1 歯茎摩擦音 z

項目番号 単語	67	2-29	2-90	52	49	2-168	43
地域	匂い (かざ)	ほくろ (あざ)	いさり	水 (みづ)	傷 (きず)	去年 (こそ)	溝 (みぞ)
①小野津	[ha]za	[ʔa]za	ʔi[za]i	[mi]zu	[kʰi]zu	hu[ɕu	mi[zu]:
②志戸桶	[ha]za	[ʔa]ɕa	i[ɕa]i	mi[ɕu	[kʰi]zu	hu[ɕu	mi[zu]:
③塩道	NR	ʔa[da	[ʔi]da[ri	mi[du	kʰi[zu	hu[du//ɸu[du	mi[zu]:
④坂嶺	--	a[za	[ʔi]za[i	--	kʰi[ɕu	ɸu[zu/[ɕu	mi[zu]:
⑤阿伝	ha[da	ʔa[da	[ʔi]da[i	mi[du	ɕi[du	--	mi[zu]:
⑥上嘉鉄	ha[da	ʔa[za	[ʔi]da[ri	mi[du	ɕi[du	ɸu[du	mi[zu]:
⑦湾	--	ʔa[da	[ʔi]da[ri	mi[du	ɕi[du	hu[du	mi[zu]:
⑧中里	ha[da	a[da	[ʔi]da[i	mi[zu/ mi[du	ɕi[zu	ɸu[du	mi[zu]:
⑨荒木	ha[da	ʔa[za	[ʔi]za[ri	mi[zu	ki[zu	ɸu[zu	mi[zu]:

表 14-2 歯茎摩擦音 z, 歯茎後部摩擦音 ɕ

項目番号 単語	2-134	96	2-50	213	2-140	75
地域	杵	肘 (ひぢ)	妻 (とじ)	麴 (かうぢ)	膳	風
①小野津	[ʔa]zu[mu	[pi]zi/ [ɸi]zi	[tʰu]zi	[ho]:[zi	[ɕi]N	[ha]zi
②志戸桶	[ʔa]ɕu[mu	pi[zi	tʰu[ɕi	[ho]:[zi	ɕi[nu	[ha]zi
③塩道	ʔa[ɕu]mu	pi[zi	tʰu[ɕi	ho[:]zi	ɕi[N	ha[di
④坂嶺	ʔa[zu]mu	pi[ɕi	tu[ɕi	ho[:]zi	ɕi[N/ [ɕiN	--
⑤阿伝	--	ɕi[zi	tʰu[ɕi	[ho]:[zi	--	ha[di
⑥上嘉鉄	ʔa[di]mu (縦杵) [jamatu]ʔa[di]mu (横杵)	ɕi[zi	tʰu[ɕi	[ho]:[zi	ɕi[N	ha[di
⑦湾	ʔa[du]mu	ɕi[zi	tʰu[ɕi	[ho:]ɕi	ɕi[N	--
⑧中里	ʔa[du]mu (縦)	ɕi[zi	tʰu[ɕi	[ho:]zi	ɕi[N	ha[di
⑨荒木	ʔa[ɕu]mu (縦)/ jama[tu]a[ɕu]mu (横)	ɕi[zi	tu[ɕi	[ho:]zi / ho[:]zi	ɕi[N	ha[zi

zは地域による発音の差が大きい。概して、小野津、坂嶺、荒木ではzまたはdzで発音されることが多く、志戸桶では歯茎後部のz/dzで、塩道、阿伝、上嘉鉄、湾、中里ではd（表の網掛け部分）で発音されることが多い（ただし、表14-1の「溝」のみ、各地zuないしzuで発音されている）。その結果、塩道、阿伝、上嘉鉄、湾、中里では、東京方言のdaとza, doとzuとzoがそれぞれ合流してda, duになっている。例えば、表12のjuda（枝）、judari（涎）のdaと表14のkada（匂い）、?ada（あざ=ほくろ）、idari（いざり）のdaは同じ音、また、表12のkadu（角）、wuduri・?uduri（踊り）のduと表14のmidu（水）、tɕidu（傷）、ɸudu・hudu（こぞ=去年）のduも同じ音である。

それだけでなく、これらの地域では「風」もhadiとなっていて（他の地域ではha□i）、表12のsudi（袖）、ɸudi（筆）のdiとhadi（風）のdiが同じ発音になっている。このことから、塩道、阿伝、上嘉鉄、湾、中里では母音の変化（e>ɪ>i）が起きる前にz>dの変化が起きていたことが分かる。

筆（ふで）：\*pude > \*ɸude > ɸudi

風（かぜ）：\*kaze > \*haze > \*hade > hadi

（母音の変化が先行した場合、\*kaze > \*haze > \*haze > hazi となり、hadiは生じない）

表14-2の「膳」の語頭音もzeに由来するが、塩道、阿伝、上嘉鉄、湾、中里でも\*dinとはならず、dzinとなっている。語頭という環境が関係している可能性もあるが、おそらく、この語が喜界島方言に取り入れられた時期が、z>dの変化が起きた後だったからではないかと考えられる。

#### （8）歯茎破擦音 ts<sup>2</sup>(ts), tɕ<sup>2</sup>(tɕ)

歯茎破擦音にはts<sup>2</sup>(ts), tɕ<sup>2</sup>(tɕ)がある。ts<sup>2</sup>(ts)は母音uの前にあらわれ、東京方言のtsに対応している。用例を表15-1にあげる。

ts<sup>2</sup>(ts)の発音も地域により差が大きく、北部の小野津、志戸桶や中部の坂嶺、南部の荒木ではts<sup>2</sup>uで発音されることが多いのに対し、中部の塩道、阿伝、上嘉鉄や南部の湾、中里ではt<sup>2</sup>uで発音されることが多い。同一地域でもts<sup>2</sup>uとt<sup>2</sup>uを揺れており、ts<sup>2</sup>uとt<sup>2</sup>uの中間的な発音も多く聞かれる。また、喉頭化が弱まっている場合もある。

表 15-1 歯茎破擦音 ts<sup>2</sup> (ts)

項目番号 地域	99	121	141	183	219
	面	綱	角(つの)	松	鯉
①小野津	ts <sup>2</sup> u[ra	tu[na	tsu[nu	ma[tsu	ka[tsu:]
②志戸桶	tɕu[ra	ts <sup>2</sup> u[na	ts <sup>2</sup> u[nu	ma[ts <sup>2</sup> u	ka[tsu:]
③塩道	tu[ra	t <sup>2</sup> u[na	tu[nu	[ma]tu	[ka]tsu[o
④坂嶺	tsu[ra	ts <sup>2</sup> u[na / tu[na	tsu[nu	[ma]tɕu	[k <sup>h</sup> a]tsu[:
⑤阿伝	tu[ra	t <sup>2</sup> u[na	t <sup>2</sup> u[nu	--	ka[tsu]o
⑥上嘉鉄	t <sup>2</sup> u[ra	t <sup>2</sup> u[na	t <sup>2</sup> u[nu	[ma]tsu	[k <sup>h</sup> a]tu[:
⑦湾	tu[ra	tsu[na / tu[na	--	[ma]tu / ma]tsu	[k <sup>h</sup> a]tu[: / k <sup>h</sup> a]tsu[:
⑧中里	t <sup>2</sup> u[ra	na[wa (縄)	t <sup>2</sup> u[nu	ma[tu	[katso
⑨荒木	tsu[ra	tsu[na	tsunu	[ma]tsu	ka[tsuo

(6) の t の箇所ですべて述べたように、喜界島方言では「鳥」が turi・tui と発音される。この tu は非喉頭化音の tu であり、また tsu と交替しない。この点で「面 (t<sup>2</sup>ura・ts<sup>2</sup>ura)」の t<sup>2</sup>u, ts<sup>2</sup>u とは区別される。ただし、「面」の t<sup>2</sup>u の喉頭化が弱まっている場合 (表 15-2 の綱掛け部分) には、「面」の tu と「鳥」の tu との区別が難しくなる。

表 15-2 「面」と「鳥」

項目番号 地域	99	121	141	60
	面	綱	角	鳥
①小野津	ts <sup>2</sup> u[ra	tu[na	tsu[nu	[tu]i
②志戸桶	tɕu[ra	ts <sup>2</sup> u[na	ts <sup>2</sup> u[nu	[tu]i
③塩道	tu[ra	t <sup>2</sup> u[na	tu[nu	tu[i
④坂嶺	tsu[ra	ts <sup>2</sup> u[na / tu[na	tsu[nu	tu[i
⑤阿伝	tu[ra	t <sup>2</sup> u[na	t <sup>2</sup> u[nu	tu[i
⑥上嘉鉄	t <sup>2</sup> u[ra	t <sup>2</sup> u[na	t <sup>2</sup> u[nu	t <sup>h</sup> u[ri
⑦湾	tu[ra	tsu[na / tu[na	--	t <sup>h</sup> u[ri
⑧中里	t <sup>2</sup> u[ra	na[wa (縄)	t <sup>2</sup> u[nu	t <sup>h</sup> u[i
⑨荒木	tsu[ra	tsu[na	tsunu	tu[ri / to[ri

tɕ<sup>2</sup>(tɕ) は母音 i の前にあらわれ、東京方言の tɕ に対応している。また、地域によっては東京方言の k(i) にも対応している。表 15-3 の「傷」「肝」「息」「箸」などがその例である (表の綱掛け部分)。東京方言の ki に対応する音が tɕi であられるのは、中部、南部の塩道、坂嶺、阿伝、上嘉鉄、湾、中里の特徴で、北部の小野津、志戸桶では東京方言の ki に対応する音は k<sup>2</sup>i である。



表 15-3 歯茎後部破擦音 tɕ

項目番号 地域	2	66	119	49	100	158	245
	血	道	鉢	傷	肝	息	箒
①小野津	[tɕ <sup>2</sup> i:]	[mi]tɕi	pa[tɕi	[k <sup>2</sup> i]zu	k <sup>2</sup> i[mu	ʔi[ki	[ho]:[ki
②志戸桶	[tɕi:] / [tɕi:	[mi]tɕi	[pa]tɕi	[k <sup>2</sup> i]zu	k <sup>2</sup> i[mu	ʔi[ki	[po]:[ki
③塩道	tɕ <sup>2</sup> i[:	mi[tɕi	pa[tɕi	k <sup>2</sup> i[zu	tɕ <sup>2</sup> i[mu	[ʔi]tɕi	po[:]tɕi
④坂嶺	tɕi[:	--	[pa]tɕi	k <sup>2</sup> i[dzu	tɕi[mu	[ʔi]tɕi	po[:]tɕi
⑤阿伝	tɕi[:	mi[tɕi	[ha]tɕi	tɕi[du	tɕi[mu	[ʔi]tɕi	po[:]tɕi
⑥上嘉鉄	tɕi[:	mi[tɕi	ha[tɕi	tɕi[du	tɕi[mu	[ʔi]tɕi	ho[:]tɕi
⑦湾	tɕ <sup>2</sup> i[:	mi[tɕi	[ha]tɕi	tɕi[du	--	[ʔi]tɕi	ho[:]tɕi
⑧中里	tɕ <sup>2</sup> i[: / [tɕ <sup>2</sup> i:	mi[tɕi	ha[tɕi / [ha]tɕi	tɕi[zu	tɕ <sup>2</sup> i[mu	[ʔi]tɕi	ho[:]tɕi
⑨荒木	[a:]tɕi[: / tɕi[:	mi[tɕi	ha[tɕi	ki[zu	tɕi[mu	[ʔi]ki / [ʔi]tɕi	ho[:]tɕi

tɕ の後には、母音 a, u, o が続くこともある。表 15-4 に用例をあげる。「明日」「人」は Xi + tV (X は任意の子音, V は任意の母音) という環境で t が口蓋化を起し、tɕa, tɕu となったもの、「子供たち」「きゅうり」は、k<sup>2</sup>が tɕ になったものである。「包丁」の tɕo は共通語的な発音かと思われる。

表 15-4 歯茎後部破擦音 tɕ

項目番号 地域	235	2-44	92	172	246	148
	明日	子供たち	人	糸	きゅうり	包丁
①小野津	a[tɕa	[k <sup>w2</sup> a]N[k <sup>2</sup> a]: / [wa]rabiN[k <sup>2</sup> a]:	[ts <sup>2</sup> u	i[tu / [i]tsu[:	NR	[ɸo]:[tɕa]:
②志戸桶	ʔa[tɕa	[k <sup>w2</sup> a]N[tɕa]: / [wa]rabiN[tɕa]:	[tɕ <sup>2</sup> u	[ʔi]tu	k <sup>2</sup> i[u]i	[ho]:[tɕu]: / [ho]:[tɕa]:
③塩道	a[tɕa	[k <sup>2</sup> a]N[tɕa]: / [wa]rabiN[tɕa]:	[tɕ <sup>2</sup> u	i[tɕu: / i[tsu:	[tɕi]u[i	ha[ta]na
④坂嶺	ʔa[tɕa	[k <sup>2</sup> a]N[tɕ <sup>2</sup> a]: / [warabi]N[tɕ <sup>2</sup> a]:	[tɕ <sup>2</sup> u	ʔi[tu]:	--	[p <sup>h</sup> o]:[tɕo]: / ha[ta]na
⑤阿伝	a[tɕa	[k <sup>2</sup> a]N[tɕa]: / [wa]rabiN[tɕa]:	[tɕ <sup>2</sup> u	i[tɕu]:	[tɕ <sup>2</sup> i]u[i	--
⑥上嘉鉄	ʔa[tɕ <sup>2</sup> a	[k <sup>2</sup> a]N[tɕa]:	tɕ <sup>2</sup> u	ʔi[tɕu]:	k <sup>2</sup> u[:]ri	ha[ta]na
⑦湾	ʔa[tɕa	[k <sup>2</sup> a]N[tɕa]: / [warabi]N[tɕa]:	tɕ <sup>2</sup> u	ʔi[tɕu]:	[tɕ <sup>2</sup> u]:[ri	[ho]:[tɕo]:
⑧中里	ʔa[tɕa	[k <sup>2</sup> a]N[tɕa]: / [warabi]N[tɕa]:	[tɕ <sup>2</sup> u?	ʔi[tɕu]:	[tɕu]:[ri	ha[ta]na
⑨荒木	a[tɕa	[k <sup>w2</sup> a]N[tɕa]: / [warabi]N[tɕa]:	tɕu?	i[tɕu]:	[k <sup>2</sup> u:ri / k <sup>2</sup> u[:]ri	ha[ta]na

以上の歯茎音につき、喜界島諸方言の状態を整理しておこう（表 16-1, 16-2）。まず、喜界島北部の小野津、志戸桶では、「血」と「肝」の第1拍目が  $t\zeta^?i$  と  $k^?i$  で区別されるが、それ以外の地域ではどちらも  $t\zeta i$  と発音され、区別がない。また、「面」の第1拍目が小野津、志戸桶、坂嶺、荒木では  $ts^?u$  と発音されるのに対し、塩道・阿伝・上嘉鉄・湾・中里では  $t^?u$  と発音される。次に、塩道、阿伝、上嘉鉄、湾、中里では、 $d$  と  $z$  が区別されず、 $z$  が  $d$  に合流している。この点で他の方言と大きく異なる。中部の坂嶺は、「血」と「肝」の第1拍目がどちらも  $t\zeta i$  と発音される点では塩道などの方言と共通しているが、「面」の第1拍目を  $ts^?u$  と発音する点や  $d$  と  $z$  の区別がある点では、小野津、志戸桶、荒木と共通している。従って、ここでは坂嶺と荒木をひとまとめにして整理した。

表 16-1

	田	手	血	肝	鳥	面	皿	島	汗	巢	袖
小野津・志戸桶	ta	ti	$t\zeta^?i$	$k^?i$	tu	$ts^?u$	sa	$\zeta i$		su	
塩道・阿伝・上 嘉鉄・湾・中里	ta	ti	$t\zeta^?i \cdot t\zeta i$		tu	$t^?u$	sa	$\zeta i$		su	
坂嶺・荒木	ta	ti	$t\zeta^?i \cdot t\zeta i$		tu	$ts^?u$	sa	$\zeta i$		su	

表 16-2

	枝	筆	かど (角)	水	傷	こぞ (昨年)	あざ かざ(匂)	風	肘	とじ (妻)
小野津	da	di	du	zu/ $\zeta u$		za	$\zeta i$			
志戸桶	da	di	du	zu/zu/ $\zeta u$ / $\zeta u$		$\zeta a$ / $\zeta a$	$\zeta i$ / $\zeta i$			
塩道・阿伝・上 嘉鉄・湾・中里	da	di	du			da	di	$\zeta i$ / $\zeta i$		
坂嶺・荒木	da	di	du	zu/ $\zeta u$		za	$\zeta i$ / $\zeta i$			

(9) 歯茎鼻音 n

歯茎鼻音には  $n$  があり、東京方言の  $n$  に対応している。後接母音は、 $a$ ,  $i$ ,  $\text{ɪ}$ ,  $u$ ,  $e$ 。表 17-1, 17-2 に用例をあげる。

$n$  は母音  $i$  の前では、口蓋化した  $n^j$  になる。 $n^j i$  と  $ni$  の各地の状況と音韻的解釈については、母音の箇所述べたとおりである。 $n^j$  の後に母音  $a$ ,  $u$  が続くこともある（表 17-3）。「蝮」「昨日」は  $Xi+nV$  という環境で  $n$  が口蓋化を起こしたもの、「麦わら」は  $mu\eta i w a r a > mun^j i w a r a > munn^j a r a$  のような変化を起こしたものと考えられる。

表 17-1 歯茎鼻音 n

項目番号 地域	10	70	116	140	248	185
	名	鼻	糠	蚤	命	苗
①小野津	[na]:	[pa]na	nu[ka	nu[mi	[ʔi]nu[ɕi	ne[:
②志戸桶	[na]:	[pa]na	nu[ka	nu[mi	[ʔi]nu[ɕi	ne[:
③塩道	na[:	pa[na	nu[ka	[nu]mi	i[nu]ɕi	ne[:
④坂嶺	na[:	--	nu[ka	[nu]mi	ʔi[nu]ɕi	ne[:
⑤阿伝	na[:	p <sup>h</sup> a[na	nu[ka	[nu]mi	i[nu]ɕi	ne[:
⑥上嘉鉄	na[:	ha[na	nu[ka	[nu]mi	ʔi[nu]ɕi <sub>u</sub>	ne[:
⑦湾	[na]ma[i	ha[na	nu[ka	[nu]mi	ʔi[nu]ɕi	na[e
⑧中里	na[:	ha[na	--	[nu]mi	ʔi[nu]ɕi	--
⑨荒木	[na]ma[i	ha[na	nu[ka	nu[mi	i[no]ɕi	na[e

表 17-2 歯茎鼻音 n

項目番号 地域	16	36	153	24	89	102
	荷	蟹	鬼	根	胸	骨
①小野津	[n <sup>i</sup> ]mu[tsu	ga[n <sup>i</sup> ]:	ʔu[n <sup>i</sup>	nɪ[:	[mu]nɪ	pu[nɪ/ɕu[nɪ
②志戸桶	n <sup>i</sup> [:	ga[n <sup>i</sup> ]:	[ʔu]n <sup>i</sup>	nɪ[:	[mu]nɪ	pu[nɪ]:
③塩道	n <sup>i</sup> [:	ga[n <sup>i</sup> ]:	ʔu[n <sup>i</sup>	[hiŋ] pi[n <sup>i</sup> ]: (木の髭)	mu[ni	ɕu[ni]:
④坂嶺	n <sup>i</sup> [:	ga[n <sup>i</sup> ]:	ʔu[n <sup>i</sup>	ni[:/[mu]tu(元)	mu[ni	[p <sup>h</sup> u]ni
⑤阿伝	--	[gai]ŋ	u[n <sup>i</sup>	ni[:	mu[ni	ɕu[ni
⑥上嘉鉄	n <sup>i</sup> [:	ga[i]:	ʔu[n <sup>i</sup>	[ni]mu[tu(根元)	mu[ni	[ɕu]ni
⑦湾	n <sup>i</sup> [:	ga[n <sup>i</sup> ]:	o[n <sup>i</sup>	nɪ[:	mu[nɪ	[ɕu]nɪ
⑧中里	n <sup>i</sup> [:	ga[n <sup>i</sup> ]:	ʔu[n <sup>i</sup>	nɪmutu	mu[nɪ	[ɕu]nɪ
⑨荒木	n <sup>i</sup> [:	ga[n <sup>i</sup> ]:	o[n <sup>i</sup>	mu[tu	mu[ne	[ɕu]nɪ

表 17-3 歯茎鼻音 n

項目番号 地域	136	2-162	2-101	234
	蜷	今	麦わら	昨日
①小野津	NR	n <sup>j</sup> a[ma	[mu]nn <sup>j</sup> a[ra]:	ki[n <sup>j</sup> u]:
②志戸桶	[ʔa]ma[n <sup>j</sup> a]:	n <sup>j</sup> a[ma	[mu]nn <sup>j</sup> a[ra]:	k <sup>ʔ</sup> i[n <sup>j</sup> u]:
③塩道	mi[n <sup>j</sup> a	[n <sup>j</sup> a]ma	[mu]nn <sup>j</sup> a[ra]:	ɕi[n <sup>j</sup> u]:
④坂嶺	mi[n <sup>j</sup> a(巻き貝)	[n <sup>j</sup> a]ma	[mun]n <sup>j</sup> a[ra]:	ɕi[n <sup>j</sup> u]:
⑤阿伝	--	--	[mu]nn <sup>j</sup> a[ra]:	ɕi[ju]:
⑥上嘉鉄	mi[ja(貝の総称)	[na]ma	[mun]n <sup>j</sup> a[ra]:	ɕi[ju]:
⑦湾	--	[n <sup>j</sup> a]ma	[mun]n <sup>j</sup> a[ra]:	ɕ <sup>ʔ</sup> i[n <sup>j</sup> u]:
⑧中里	mi[n <sup>j</sup> a	[n <sup>j</sup> a]ma	[mun]n <sup>j</sup> a[ra]:	[ɕi]n <sup>j</sup> u]:
⑨荒木	mi[n <sup>j</sup> a	[n <sup>j</sup> a]ma	mu[gi]wa[ra]	ɕʔi[n <sup>j</sup> u]:

(10) 齒茎弾音 r

齒茎弾音には r がある。後接母音は a, i, u, e, o。語頭には立たない。以下に用例をあげる。

表 18-1 齒茎弾音 r

項目番号 単語	45	99	218	126	152	256
地域	皿	面	鎖	夜	色	たらい
①小野津	[sa]ra	ts <sup>2</sup> u[ra	[k <sup>2</sup> usari/ [k <sup>2</sup> u]sa[ri	ju[ru	ʔi[ru	[ta]re:]
②志戸桶	[sa]ra	tɕu[ra	k <sup>2</sup> u[sari	ju[ru	ʔi[ru	ta[re:]
③塩道	sa[ra	tu[ra	[k <sup>2</sup> u]sa[ri	ju[ru	i[ru	ta[re:]
④坂嶺	sa[ra	tsu[ra	[ku]sa[i	ju[ru	ʔi[ru	ta[re:]
⑤阿伝	sa[ra	tu[ra	k <sup>2</sup> u[sari	ju[ru	i[ru	[bin]da[re:]
⑥上嘉鉄	sa[ra	t <sup>2</sup> u[ra	NR	ju[ru	ʔi[ru	t <sup>h</sup> a[re:]
⑦湾	[so]:[da]ra	tu[ra	NR	ju[ru	--	t <sup>h</sup> a[re:]
⑧中里	sa[ra]/[sara	t <sup>2</sup> u[ra	[kusari	ju[ru	ʔi[ru	ta[re:]
⑨荒木	sa[ra	tsu[ra	(k <sup>2</sup> u[sari)	juru	i[ru	ta[re:]

表 18-2 齒茎弾音 r

項目番号 単語	2-45	2-22
地域	親戚	げんこつ, 握りこぶし
①小野津	[ɸa]ro:[ɸi:]	[tekk <sup>2</sup> o:]
②志戸桶	[ha]ro:[ɸi:]	[t <sup>h</sup> i]kko:]
③塩道	p <sup>h</sup> a[ro]:ɸi/ [p <sup>h</sup> aro:ɸi]N[tɕa:]	[t <sup>h</sup> i]ku[ro:]
④坂嶺	pa[ro]:[zi:] (単数)/ pa[rozi]N[tɕ <sup>2</sup> a:] (複数)	[t <sup>h</sup> ik]ko:]
⑤阿伝	[ɸa]ro:[ɸi	t <sup>h</sup> ik[ko:] / k <sup>2</sup> a[ɸa
⑥上嘉鉄	[haro]:[ɸi:] / [so:de]N[tɕa:]	t <sup>h</sup> ik[ko:]
⑦湾	[haro]:[ɸi:]	t <sup>h</sup> ik[ko:]
⑧中里	[haro]:[ɸi:]	t <sup>h</sup> ik[ko:]
⑨荒木	ha[ro]:[ɸi:]	[t <sup>h</sup> i]kku[ro:]

4. 3 軟口蓋音

(11) 軟口蓋音 k k<sup>2</sup> g ŋ

軟口蓋音には閉鎖音の k, k<sup>2</sup>, g と鼻音の ŋ がある。

k, k<sup>2</sup>は母音 a, i, ɪ, u, e, ɛ, o の前に立つ。表 19-1~19-4 に用例をあげる。(8) 齒茎破擦音の箇所でも述べたように、喜界島北部では「傷」「肝」の第1拍目が喉頭化した k<sup>2</sup>i で発音され、中・南部では tɕi と発音される。その結果、北部では「傷」「肝」の第1拍目

と「怪我」の第1拍目が  $k^2i$  と  $kɪ$  で区別され、中・南部では  $tɕi$  と  $ki$  で区別されることになる。「怪我」の  $kɪ$  が  $ki$  に変化したのに伴って、中・南部では「傷」「肝」の  $k^2i$  の子音が硬口蓋の  $tɕ$  の方向へ逃げた格好になっている。

小野津, 志戸桶  $k^2i$  (傷) :  $kɪ$  (怪我)  
( \*  $k^2i$  (傷) :  $ki$  (怪我))  
中・南部  $tɕi$  (傷) :  $ki$  (怪我)

「釘」「雲」などの第1拍目（東京方言では  $ku$ ）と「暦」「声」などの第1拍目は、どの地域でも喉頭化音の  $k^2u$  と非喉頭化音の  $ku$  で区別されている（表 19-3）。

表 19-1 軟口蓋閉鎖音 k

項目番号 地域	37 粥	90 型	224 瓦	229 鏡	116 糠	117 墓
①小野津	$ka[i:]$	$[ka]ta$	$ka[wa]ra$	$[ka]ga[mi]$	$nu[ka$	$[pa]ka$
②志戸桶	$ka[i:]$	$[ka]ta$	$[ka]wa[ra$	$[ka]ga[mi]$	$nu[ka$	$[pa]ka$
③塩道	$ka[i$	$ka[ta$	$ka[wa]ra$	$[ka]ga[mi]$	$nu[ka$	$pa[ka/$ $[pa]kan[me:]$
④坂嶺	$ka[ju$	$ka[ta$	--	$[ka]ga[mi]$	$nu[ka$	$pa[ka/φa[ka$
⑤阿伝	$ka[i$	$ka[ta$	$ka[wa]ra$	$[ka]ga[mi]$	$nu[ka$	$φa[ka$
⑥上嘉鉄	$[k^ha]i[:$	$ka[ta$	$ka[wa]ra$	$[k^ha]ga[mi]$	$nu[ka$	$ha[ka$
⑦湾	$k^ha[i$	--	$k^ha[wa]ra$	$[k^ha]ga[mi]$	$nu[ka$	$ha[ka$
⑧中里	$k^ha[i/$ $k^ha[ju$	$k^ha[ta$	$[kawara$	$[ha]ga[mi/$ $[kagami$	--	$ha[ka$
⑨荒木	$[ka]i[:$	$ka[ta$	$ka[wa]ra$	$ka[ga]mi$	$nu[ka$	$ha[ka$

表 19-2 軟口蓋閉鎖音 k

項目番号 地域	78 霧	49 傷	125 時	158 息	148 怪我	247 情け
①小野津	$[k^2iri/$ $ka[su]mi$	$[k^2i]zu$	$[tu]ki$	$?i[ki$	$kɪ[ga$	$[na]sa[kɪ$
②志戸桶	$mu[ja$	$[k^2i]zu$	$tu[ki$	$?i[ki$	$kɪ[ga$	$[na]sa[kɪ$
③塩道	$mu[ja$	$k^2i[zu$	NR	$[?i]tɕi$	$ki[ga$	$na[s]a[ki$
④坂嶺	--	$k^2i[ɕu$	$t^hu[ki$	$[?i]tɕi$	$kɪ[ga$	--
⑤阿伝	--	$tɕi[du$	$tu[ki$	$[?i]tɕi$	--	NR
⑥上嘉鉄	$k^2i[ri$	$tɕi[du$	$[du]tɕi[:$	$[?i]tɕi$	$k^hi[ga$	$na[s]a[ki$
⑦湾	$k^2i[ri$	$tɕi[du$	NR	$[?i]tɕi$	--	NR
⑧中里	$[mu]ja$	$tɕi[zu$	--	$[?i]tɕi$	$ki[ga/$ $kɪ[ga$	--
⑨荒木	$k^2i[ri$	$ki[zu$	$tu[ki$	$[?i]ki/$ $[?i]tɕi$	$ke[ga$	--

表 19-3 軟口蓋閉鎖音 k

項目番号 単語	64	130	174	225	196	241
地域	釘	雲	奥	曆	声	従兄弟
①小野津	[k <sup>2</sup> u]n <sup>2</sup> i	k <sup>2</sup> u[mu	u[ku	[ku]ju[mi	ku[i	[i]tu[ku
②志戸桶	k <sup>2</sup> u[n <sup>2</sup> i	k <sup>2</sup> u[mu	[ʔu]k <sup>2</sup> u	[ku]ju[mi	ku[i	[ʔi]tu[ku
③塩道	k <sup>2</sup> u[n <sup>2</sup> i	k <sup>2</sup> u[mu	[ʔu]ku	[ku]ju[mi	[ku]i	[i]tu[ku
④坂嶺	k <sup>2</sup> u[n <sup>2</sup> i	k <sup>2</sup> u[mu	NR	[k <sup>h</sup> u]ju[mi	[k <sup>h</sup> u]i	--
⑤阿伝	k <sup>2</sup> u[gi	k <sup>2</sup> u[mu	[ʔu]ku	[ku]ju[mi	[ku]i	--
⑥上嘉鉄	k <sup>2</sup> u[gi	k <sup>h</sup> u[mo	[oku	[k <sup>h</sup> u]ju[mi	[k <sup>h</sup> u]i	[ʔi]tu[ku
⑦湾	--	k <sup>2</sup> u[mu	NR	[k <sup>h</sup> u]ju[mi	[k <sup>h</sup> u]i	[ʔi]tu[ku
⑧中里	k <sup>2</sup> u[n <sup>2</sup> i	k <sup>2</sup> u[mu	[ʔu]ku	[ku]ju[mi/ [ɸu]ju[mi	[k <sup>h</sup> u]i	[ʔi]tu[ku/ ʔi[tu]ku
⑨荒木	ku[gi/ ku[ŋi	k <sup>2</sup> u[mu	--	[ku]ju[mi	ku[i	(i[to]ko)

k, k<sup>2</sup>には、合拗音の k<sup>w</sup>や口蓋化した k<sup>j</sup> もあらわれる（表 19-4 のの網掛け部分）。「烏賊」「今日」「きゅうり」は、Xi+kV という環境で k が口蓋化を起こしたものである。

表 19-4 軟口蓋閉鎖音 k

項目番号 単語	232	30	28	176	246
地域	鼓	鍬	烏賊	今日	きゅうり
①小野津	NR	[k <sup>w</sup> e]:	[ʔi]k <sup>j</sup> a	k <sup>j</sup> u[:	NR
②志戸桶	[te]:[ko]:	[k <sup>w</sup> ë]:	[ʔi]ka	k <sup>j</sup> u[:	k <sup>2</sup> i[u]i
③塩道	[te]:[ko://[ta]i[ko]:	[k <sup>2</sup> e]:	i[ka	[ɕu]:	[tɕi]u[i
④坂嶺	--	[k <sup>2</sup> e]:	ʔi[ka	[su]:	--
⑤阿伝	--	ke[:	[i]ka	[su]:	[tɕ <sup>2</sup> i]u[i
⑥上嘉鉄	[te]:[ko]:	k <sup>2</sup> e[:	ʔi[ka	[su]:	k <sup>2</sup> u[:ri
⑦湾	--	[k <sup>2</sup> e]:/[k <sup>j</sup> e]:	ʔi[ka	[su]:	[tɕ <sup>2</sup> u]:[ri
⑧中里	--	[k <sup>2</sup> e]:	ʔi[ka	[su]:	[tɕu]:[ri
⑨荒木	--	[k <sup>w</sup> e]:	i[ka	[su]:	[k <sup>j</sup> u:ri/k <sup>j</sup> u[:ri

次に、g と ŋ は、基本的には g が語頭にあらわれ、ŋ が語中にあらわれるという関係にある。語頭の g は、表 20-1 の「蟹」「烏」「茅」のように、動物名、植物名に多い。

ŋ に関しては、北部では比較的安定して ŋ があらわれるが、中・南部では表 20-1 の「犬（イヌ+クワ=犬っこ）」を除き、g であらわれている（表では ŋ に網掛けをしている）。中・南部では語中の ŋ が g との間を揺れることも多く、鼻音の衰退が進んでいる。また、後接母音が i の場合、地域によっては ŋi が n<sup>2</sup>i・n<sup>2</sup>i で定着しているような語もある（表 20-2 の pin<sup>2</sup>i・çin<sup>2</sup>i（髭）、n<sup>2</sup>in<sup>2</sup>i（右）、表 19-3 の k<sup>2</sup>un<sup>2</sup>i（釘）、表 17-3 の mun<sup>2</sup>ara:（麦わら）など）。

表 20-1 軟口蓋閉鎖音 g, ŋ

項目番号 地域	36 蟹	184 烏	229 茅	148 鏡	135 怪我	犬
①小野津	ga[nʲi]:	[ga]ra[sa]:	ga[ja]	[ka]ga[mi]	ki[ga]	[i]N[ŋa]:
②志戸桶	ga[nʲi]:	[ga]ra[sa]:	ga[ja]	[ka]ga[mi]	ki[ga]	[ʔi]N[ŋa]:
③塩道	ga[nʲi]:	[ga]ra[sa]:	ga[ja]	[ka]ga[mi]	ki[ga]	[i]N[ŋa]:
④坂嶺	ga[nʲi]:	[ga]ra[sa]:	ga[ja]	[ka]ga[mi]	ki[ga]	[ʔi]N[ŋa]:
⑤阿伝	[gai]N	[ga]ra[sa]:	--	[ka]ga[mi]	--	i[nu]
⑥上嘉鉄	ga[i]:	[ga]ra[sa]:	ga[ja]	[k <sup>h</sup> a]ga[mi]	k <sup>h</sup> i[ga]	[ʔi]N[ŋa]:
⑦湾	ga[nʲi]:	[ga]ra[sa]:	ga[ja]	[k <sup>h</sup> a]ga[mi]	--	[ʔi]N[ŋa]:
⑧中里	ga[nʲi]:	[ga]ra[sa]:	ga[ja]	[ha]ga[mi] / [kagami]	ki[ga] / ki[ga]	[ʔi]N[ŋa]:
⑨荒木	ga[nʲi]:	[ga]ra[sa]:	ga[ja]	ka[ga]mi	ke[ga]	[i]N[ŋ <sup>w</sup> a]:

表 20-2 軟口蓋鼻音 g, ŋ

項目番号 地域	32 右	72 髭	252 兎	251 鰻	111 垢(汚れ)	91 口蓋
①小野津	nʲi[nʲi]:	[pi]nɪ	[u]sa[gi]	[ʔu]na[ŋ <sup>j</sup> a]:	[p <sup>ʔ</sup> i]Ngu	[ʔu]tɕe[:
②志戸桶	[mi]ŋi	[pi]nʲi / [pi]ŋi	[ʔu]sa[ŋi]	[ʔu]na[ŋi]	[pɪ]Nŋu:	[ʔa]gu
③塩道	[mi]gi	pi[nʲi]	u[sa]gi	u[na]gi	[pi]N[gu:] / [ϕi]N[gu]	ʔa[gu]
④坂嶺	[mi]gi	pi[ni]	--	--	[pi]N[du]	ʔa[gu]
⑤阿伝	[mi]gi	p <sup>h</sup> i[gi]:	ʔu[sa]gi	[ʔu]na[gi]	[pi]N[gu]	[u]tu[je]:
⑥上嘉鉄	[mi]gi	çi[gi]	ʔu[sa]gi	ʔu[na]gi	[çi]N[gu]:	[ʔa]gu
⑦湾	[mi]gi	--	u[sa]gi	NR	[çi]N[gu]	ʔa[gu]
⑧中里	mi[gi]	çi[nʲi] / ϕi[ŋi]	[ʔu]sagi	[ʔu]nagi	[çi]N[gu]:	ʔa[gu]
⑨荒木	mi[gi]	çi[nɪ]	u[sa]gi	u[na]gi	[çi]N[gu]	a[go]

#### 4. 4 声門音

##### (1 2) 声門閉鎖音 ʔ

母音が語頭にくると、通常は声門閉鎖音 ʔ を伴って発音される。ただし、声門閉鎖が弱まって発音される場合もある。以下に用例をあげる。

表 21 声門閉鎖音 ?

項目番号 地域	260	28	29	40	85
	欠伸	烏賊	海老	牛	音
①小野津	[ʔa]ku[bi	[ʔi]kʲa	[ʔi]bi	[ʔu]çi	[ʔu]tu
②志戸桶	ʔa[ku]bi	[ʔi]ka	[ʔi]bɪ	[ʔu]çi	[ʔu]tu
③塩道	a[ku]bi	i[ka	ʔi[bi	u[çi	u[tu
④坂嶺	ʔa[ku]bi	ʔi[ka	ʔi[bi	ʔu[çi	ʔu[tu
⑤阿伝	ʔa[ku]bi	[i]ka	i[bi	u[çi	u[tu
⑥上嘉鉄	[ʔa]ku[bi	ʔi[ka	ʔi[bi	ʔu[çi	ʔu[tu
④坂嶺	ʔa[ku]bi	ʔi[ka	ʔi[bi	ʔu[çi	ʔu[tu
⑦湾	ʔa[ku]bi	ʔi[ka	ʔi[bi	ʔu[çi	ʔu[tu
⑧中里	[akubi / [a]ku[bi	ʔi[ka	ʔi[bi	ʔu[çi	ʔu[tu
⑨荒木	a[ku]bi	i[ka	e[bi	u[çi	o[to

(13) 声門摩擦音 h

北部の p が南部では声門摩擦音 h であらわれることについては、(1) 両唇閉鎖音(両唇摩擦音)の箇所述べたので、そのような h についてはここでは扱わない。ここでは、北部で h があらわれる語を取り上げる。

声門摩擦音 h は、語頭にのみあらわれる。変化の過程で語中に h または x が生じたと推定される場合がある(酒: \*sake > \*saxe > \*sae > \*së: > se: など)が、現在は語中に h や x があらわれることは稀である。後接母音は a, i, u, o。後接母音が i の場合、h が ç になることがある。また、後接母音が u の場合、ϕ になることがある。ただし、hi と çi, hu と ϕu の違いは大変微妙であり、聞き取りが難しい。今回の調査の範囲では、データが不足していて、この違いについて明らかにすることはできなかった。今後の調査の課題である。

表 22-1 声門摩擦音 h

項目番号 地域	157	169	75	83	122	67
	肩	鎌	風	紙	瓶	匂い
①小野津	ha[ta	ha[ma	[ha]zi	[ha]bi	ha[mɪ	[ha]za
②志戸桶	ha[ta	ha[ma	[ha]zi	ha[bi	ha[mɪ	[ha]za
③塩道	ha[ta	ha[ma	ha[di	ha[bi	[ha]mi	NR
④坂嶺	ha[ta	ha[ma	--	ha[bi	[ha]mi	--
⑤阿伝	ha[ta	ha[ma	ha[di	ha[bi	[ha]mi	ha[da
⑥上嘉鉄	ha[ta	ha[ma	ha[di	ha[bi	ha[mi	ha[da
⑦湾	ha[ta	ha[ma	--	--	[ha]mi	--
⑧中里	ha[ta	ha[ma	ha[di	ha[bi	[ha]mi	[nʲu]:[i / [nʲi]ju[i / ha[da
⑨荒木	ha[ta	ha[ma	ha[zi	ha[bi	[ha]mi	ha[da



表 22-2 声門摩擦音 h

項目番号 地域	168	42	87	138	103	178
地域	笠・傘	金	垣	亀	皮	角(かど)
①小野津	ha[sa	[ka]ne	[ha]ki	ha[mɪ	ha[:	[ka]du
②志戸桶	ha[sa	[ha]nɪ	ha[kʰi	[ka]mɪ	ka[wa	[ka]du
③塩道	ha[sa	NR	NR	ka[me// [ha]mi	ka[wa	ka[du
④坂嶺	ha[sa	ha[ni/ xa[ni	[ʔi]çiga[ɕi (石垣)	[ka]mi[ŋa]:	kʰa[wa	ha[du
⑤阿伝	ha[sa	ha[ni	[so]N[na]ɕi (ヒンブン)	[ha]mi[:	ka[wa	ka[du
⑥上嘉鉄	ha[sa (傘)	ha[ni	NR	[ha]mi	kʰa[wa	kʰa[du
⑦湾	ha[sa	ha[nɪ	NR	[ha]mi[:	kʰa[wa	kʰa[du
⑧中里	ha[sa	ha[nɪ	[ʔi]çi[ga]ɕi (石垣)	[ha]mi[:	ka[wa	kʰa[du/ su[mi(隅)
⑨荒木	ka[sa	ha[ni/ ha[nɪ	ka[ki]ne(垣根)	ka[mi/ ka[me	ka[wa	ka[du

表 22-3 声門摩擦音 h

項目番号 地域	22	1	31	115	213
地域	木	毛	腰, 後ろ	米	麴
①小野津	hɪ[:	[çi]:	[hu]çi	hu[mɪ	[ho]:[zi
②志戸桶	çi[:	[çi]:	[hu]çi	hu[mɪ	[ho]:[zi
③塩道	hi[:	pi[nʰi(ひげ)/ [ha]ççia[ŋi]:	hu[çi	hu[mi	ho[:]zi
④坂嶺	hi[:	ke[:/ [has]sa[gi]:	hu[çi	hu[mi	ho[:]zi
⑤阿伝	çi[:	çi[:	hu[çi	hu[mi	[ho]:[zi
⑥上嘉鉄	çi[:	çi[gi]: (ひげ)	[φu]çi	φu[mi	[ho]:[zi
⑦湾	çi[:	çi[nʰi	hu[çi	hu[mi	[ho:]ççi
⑧中里	çi[:	[has]sa[ŋi]:/ [has]sa[nɪ]:	φu[çi/hu[çi	φu[mi/ φu[mɪ	[ho:]zi
⑨荒木	çi[:	çi[nɪ/ (ひげ)	φu[çi	φu[mi	[ho:]zi/ ho[:]zi

上記の h は東京方言の ka, ke, ko に対応している。東京方言の ki と ku は、先に述べたように、kʰi (北部)・ɕi (南部), および kʰu で発音され、hi や hu にはならない。ところが、表 22-3 の「木」は、kʰi や ɕi ではなく hɪ:, hi:, ç:i になっている。このことからすると、喜界島方言の「木」の祖形は、\*ki ではなく \*ke と考えなければならない。これに関しては、奄美大島の「木」が「毛」と同じ発音になっていることから、古代日本語で「木」のことをケと言っていたのではないかという上村(1955・1998)の指摘がある。

ただし、東京方言の ka, ke, ko に対応する子音がすべて h で発音されるわけではない。例えば、表 22-2 の「皮」「角(かど)」は h よりも k の地域の方が多い(網掛け部分)。ま

た、表 22-4, 22-5 にあげた語は、すべての地域で k になっている。どのような語が h であらわれやすく、どのような語が k であらわれやすいのかについては、他の琉球方言とも比較しながら考える必要がある。

表 22-4 東京方言の ka に対応する k

項目番号 地域	37	90	220	219	224	229
	粥	型	形	鯉	瓦	鏡
①小野津	ka[i]:	[ka]ta	[ka]ta(型)	ka[tsu]:	ka[wa]ra	[ka]ga[mi
②志戸桶	ka[i]:	[ka]ta	ka[ta]t̚çi	ka[tsu]:	[ka]wa[ra	[ka]ga[mi
③塩道	ka[i	ka[ta	[ka]ta[t̚çi	[ka]tsu[o	ka[wa]ra	[ka]ga[mi
④坂嶺	ka[ju	ka[ta	--	[k <sup>h</sup> a]tsu[:	--	[ka]ga[mi
⑤阿伝	ka[i	ka[ta	--	ka[tsu]o	ka[wa]ra	[ka]ga[mi
⑥上嘉鉄	[k <sup>h</sup> a]i[:	ka[ta	[k <sup>h</sup> a]ta[t̚çi	[k <sup>h</sup> a]tu[:	ka[wa]ra	[k <sup>h</sup> a]ga[mi
⑦湾	k <sup>h</sup> a[i	--	[k <sup>h</sup> a]ta[t̚çi	[k <sup>h</sup> a]tu[:/ [k <sup>h</sup> a]tsu[:	k <sup>h</sup> a[wa]ra	[k <sup>h</sup> a]ga[mi
⑧中里	k <sup>h</sup> a[i/ k <sup>h</sup> a[ju	k <sup>h</sup> a[ta	[ka]ta[t̚çi/ [katat̚çi	[katsuo	[kawara	[ha]ŋa[mi / [kagami
⑨荒木	[ka]i[:	ka[ta	[ka]ta[t̚çi	ka[tsuo	ka[wa]ra	ka[ga]mi

表 22-5 東京方言の ke, ko に対応する k

項目番号 地域	148	196	205	225	18
	怪我	声	心	暦	粉
①小野津	kɪ[ga	ku[i	NR	[ku]ju[mi	[me]ri[ken]ko
②志戸桶	kɪ[ga	ku[i	[ku]ku[ru	[ku]ju[mi	ku[:
③塩道	ki[ga	[ku]i	NR	[ku]ju[mi	k <sup>h</sup> u[na
④坂嶺	kɪ[ga	[k <sup>h</sup> u]i	[k <sup>h</sup> u]ku[ru	[k <sup>h</sup> u]ju[mi	[k <sup>h</sup> u]:
⑤阿伝	--	[ku]i	t̚çi[mu	[ku]ju[mi	--
⑥上嘉鉄	k <sup>h</sup> i[ga	[k <sup>h</sup> u]i	[k <sup>h</sup> u]ku[ru	[k <sup>h</sup> u]ju[mi	[k <sup>h</sup> u]:
⑦湾	--	[k <sup>h</sup> u]i	[ku]ku[ru	[k <sup>h</sup> u]ju[mi	k <sup>h</sup> u[na
⑧中里	ki[ga/ kɪ[ga	[k <sup>h</sup> u]i	[ku]ku[ru/ [kukuru	[ku]ju[mi/ [ϕu]ju[mi	k <sup>h</sup> u[:
⑨荒木		ku[i	NR	[ku]ju[mi	ko[na

喜界島諸方言の p, ϕ, h, k の関係をまとめたのが表 22-6 である (h, ϕ に網掛けをする)。北部の小野津, 志戸桶, 中部の塩道, 坂嶺, 阿伝に比べ, 中・南部の上嘉鉄, 湾, 中里, 荒木では h の発音が多くなっている。「傷」の第 1 拍目が k<sup>2</sup> または t̚çi になること, 「雲」の第 1 拍目が k<sup>2</sup> になることについては, (1 1) で述べた。

表 22-6 ハ行とカ行

	歯	肩	肘	屁	木	傷	船	骨	米	雲
小野津	pa	ha	pi	pi/ϕi	hi	k <sup>2</sup> i	pu		hu	k <sup>2</sup> u
志戸桶	pa	ha	pi	pi	çi	k <sup>2</sup> i	ϕu	pu	hu	k <sup>2</sup> u
塩道	pa	ha	pi		hi	k <sup>2</sup> i	ϕu		hu	k <sup>2</sup> u
坂嶺	pa	ha	pi	ϕi	hi	k <sup>2</sup> i	pu		hu	k <sup>2</sup> u
阿伝	pa	ha	çi	pi/ϕi	çi	tçi	ϕu		hu	k <sup>2</sup> u
上嘉鉄	ha		çi			tçi	ϕu			k <sup>2</sup> u
湾	ha		çi			tçi	ϕu	hu	k <sup>2</sup> u	
中里	ha		çi			tçi	ϕu			k <sup>2</sup> u
荒木	ha		çi			ki	ϕu			k <sup>2</sup> u

#### 4. 5 接近音

接近音には w, j がある。

w は軟口蓋接近音の w̥ や硬口蓋接近音の w̥ であらわれることもある。後接母音は a, i, ɪ, u, e。wa は東京方言の wa に対応する位置にあらわれる。wi, wi, we は wai, ui, ui などの連母音が融合した結果、生じた音で、ほとんどが長音であらわれる（桶：\*oke > \*oxe > \*oe > ui > ui > wi:, 上：\*ue > ui > wi: > wi:, 祝い：\*juwai > iwe:）。wu は、(1) 狭母音の箇所ですべてのように、ワ行のワに由来する音にあらわれる（表 23-3 の網掛け部分）。

表 23-1 接近音 w

項目番号 単語	110	186	224	103	182
地域	腹	わら	瓦	皮	粟
①小野津	wa[ta	wa[ra	ka[wa]ra	ha[:	a[wa
②志戸桶	wa[ta	wa[ra	[ka]wa[ra	ka[wa	?a[wa
③塩道	wa[ta	wa[ra	ka[wa]ra	ka[wa	a[wa
④坂嶺	wa[ta	wa[ra	--	k <sup>h</sup> a[wa	?a[wa
⑤阿伝	wa[ta	--	ka[wa]ra	ka[wa	[a]wa
⑥上嘉鉄	wa[ta	wa[ra]/[wa]ra	ka[wa]ra	k <sup>h</sup> a[wa	?a[wa
⑦湾	wa[ta	wa[ra	k <sup>h</sup> a[wa]ra	k <sup>h</sup> a[wa	?a[wa
⑧中里	wa[ta	wa[ra	[kawara	ka[wa	?a[wa
⑨荒木	wa[ta	wa[ra	ka[wa]ra	ka[wa	a[wa

表 23-2 接近音 w

項目番号 地域	201	2-32	207	2-102
	桶	甥・姪	上	お祝い
①小野津	uɪ	(w)u[ik]k <sup>w</sup> a	[u]ɪ	[ju]:[we]:
②志戸桶	uɪ	u[i]k[ka, uik[ka	[wɪ]:	[ju]we[:
③塩道	ta[re:(たらい)]/[wi]:	[ma]ta[be]:	wi[:	[ju:]je[:
④坂嶺	NR	[wik]ka	[ɥi]:	[ju:]je[:
⑤阿伝	[u]i/[wi]:	wi[:k]k <sup>a</sup>	[wi	[ju:]je[:
⑥上嘉鉄	NR	βik[ka	ɥi[:	[ju:]we[:
⑦湾	NR	[mi]:[ik]ka(甥姪)	[ɥi]:	[ju:]je[:
⑧中里	t <sup>h</sup> a[ru	mi[:]kka	ɥi[:	[ju:]je[:
⑨荒木	u[ki	mik[k <sup>w</sup> a	wi[:	[ju:]je[:/ju[:]je[:

表 23-3 (=表 3-3) 接近音 w

項目番号 地域	34	38	36	33	175
	夫	女	叔母	叔父	おととい
①小野津	[u]tu	[u]na[ɲu	u[ba]:	u[ɕi]:	?ut[t <sup>ʰ</sup> i]:
②志戸桶	[u]tu	[u]na[ɲu	[?u]ba[kkɪ](:), [?u]ba	[?u]N[mɥi]:	[wu]t[ti]:
③塩道	wu[t <sup>ʰ</sup> u	[wu]na[gu	[?a]N[ma]:/ ?a[ni]:	[k <sup>ʰ</sup> i]N[k <sup>ʰ</sup> a]:	wut[t <sup>ʰ</sup> i]:/[wu]t[ti]:
④坂嶺	gu[tu	[gu]na[ɲu	?u[ba]:	?u[zi]:	[gu]t[t <sup>h</sup> i]:
⑤阿伝	gu[tu	[gu]na[u	gu[ba	gu[ɕi	--
⑥上嘉鉄	?u[tu	[wu]na[u	wu[ba	?u[ɕi	?ut[ti]:
⑦湾	wu[tu	[wu]na[gu	wu[ba]:	wu[ɕi]:	wut[t <sup>ʰ</sup> i]:
⑧中里	?u[tu	[?u]na[gu	?o[ba]:/?u[ba	?u[ɕi]:	?ut[t <sup>ʰ</sup> i]:
⑨荒木	?u[tu	[?u]na[ɥu	?o[ba]:	?u[ɕi]:	--

j は母音 a, i, ɪ, u の前にあらわれる。ja は東京方言の ja に対応し, ju は東京方言の ju と jo に対応している。ji, ji は古語のヤ行のエに由来する音にあらわれる (表 24-2 「柄」「枝」)。

表 24-1 接近音 j

項目番号 地域	2-80	128	184	112	78
	家	山	茅	親	霧
①小野津	[ja:	ja[ma	ga[ja	[tu]zitu(母父)	[k <sup>2</sup> i[ri/ka[su]mi
②志戸桶	ja[:	ja[ma	ga[ja	?u[ja	mu[ja
③塩道	ja[:	ja[ma	ga[ja	?u[ja	mu[ja
④坂嶺	ja[:	ja[ma	ga[ja	u[ja	--
⑤阿伝	[ja:	ja[ma	--	--	--
⑥上嘉鉄	ja[:	ja[ma	ga[ja	?u[ja	k <sup>2</sup> i[ri
⑦湾	ja[:	ja[ma	ga[ja	u[ja	k <sup>2</sup> i[ri
⑧中里	ja[:	ja[ma	ga[ja	?u[ja	[mu]ja
⑨荒木	ja[:/[ja:	ja[ma	ga[ja	u[ja	k <sup>2</sup> i[ri/mo[ja/mu[ja

表 24-2 接近音 j

項目番号 地域	5	46	17	126	95	41
	柄	枝	湯	夜	冬	魚
①小野津	[jɪ:	[ju]da	ju[:	ju[ru	[p <sup>2</sup> u]ju	[?i]ju
②志戸桶	[ji]:	[ji]da/[ju]da	ju[:	ju[ru	[φu]ju	[?i]u
③塩道	ji[:	ju[da	ju[:	ju[ru	φu[ju	?i[ju
④坂嶺	je[:	ji[da	ju[:	ju[ru	pu[ju	?i[ju
⑤阿伝	ji[:	ju[da	ju[:	ju[ru	φu[ju	i[ju
⑥上嘉鉄	ji[:	ju[da	ju[:	ju[ru	φu[ju	ju
⑦湾	NR	ju[da	ju[:	ju[ru	φu[ju	?i[ju
⑧中里	--	ji[da/ju[da	ju[:	ju[ru	φu[ju	?i[ju
⑨荒木	ji[:	ju[da	ju[:	juru	φu[ju	i[ju

#### 4. 6 喜界島諸方言の子音音素目録

最後に、9地点の子音音素の目録をあげておく。[ ] は異音をあらわす。また、( )はその音が稀にしかあらわれないことをあらわす。

##### 小野津方言，志戸桶津方言の子音音素

閉鎖音	p[p/ϕ]	b	t	t <sup>2</sup>	d	k	k <sup>2</sup>	g	ʔ
破擦音			ts <sup>2</sup>	tɕ					
摩擦音			s[s/ç]	z[z/ɕ/z/ɕ]					h
鼻音	m		n[n/n <sup>j</sup> ]			ŋ			
弾音			r						
接近音			j			w			

##### 坂嶺方言の子音音素

閉鎖音	p[p/ϕ]	b	t	t <sup>2</sup>	d	k	k <sup>2</sup>	g	ʔ
破擦音			ts <sup>2</sup> [ts <sup>2</sup> /ts]	tɕ					
摩擦音			s[s/ç]	z[z/ɕ/z/ɕ]					h
鼻音	m		n	n <sup>j</sup>		ŋ			
弾音			r						
接近音			j			w			

##### 塩道方言，阿伝方言の子音音素

閉鎖音	p[p/ϕ]	b	t	t <sup>2</sup>	d	k	k <sup>2</sup>	g	ʔ
破擦音				tɕ					
摩擦音			s[s/ç]	z[z/ɕ]					h
鼻音	m		n	n <sup>j</sup>		ŋ			
弾音			r						
接近音			j			w			

##### 上嘉鉄方言の子音音素

閉鎖音	(p)	b	t	t <sup>2</sup>	d	k	k <sup>2</sup>	g	ʔ
破擦音				tɕ					
摩擦音			s[s/ç]	z[z/ɕ]					h[h/ç/ϕ]
鼻音	m		n	n <sup>j</sup>		ŋ			
弾音			r						
接近音			j			w			

### 湾方言の子音音素

閉鎖音	(p)	b	t	t <sup>2</sup>	d	k	k <sup>2</sup>	g	ʔ
破擦音			(ts)	tɕ					
摩擦音			s[s/ɕ]		ʒ[ʒ/ɕ]				h[h/ɕ/ɸ]
鼻音	m		n	n <sup>j</sup>				ŋ	
弾音			r						
接近音			j				w		

### 中里方言の子音音素

閉鎖音	(p)	b	t	t <sup>2</sup>	d	k	k <sup>2</sup>	g	ʔ
破擦音				tɕ <sup>2</sup> [tɕ <sup>2</sup> /tɕ]					
摩擦音			s[s/ɕ]	(z)	ʒ[ʒ/ɕ]				h[h/ɕ/ɸ]
鼻音	m		n[n/n <sup>j</sup> ]					ŋ	
弾音			r						
接近音			j				w		

### 荒木方言の子音音素

閉鎖音	(p)	b	t	t <sup>2</sup>	d	k	k <sup>2</sup>	g	ʔ
破擦音			ts	tɕ					
摩擦音			s[s/ɕ]		z[z/ɕ/z/ɕ]				h[h/ɕ/ɸ]
鼻音	m		n	n <sup>j</sup>				ŋ	
弾音			r						
接近音			j				w		

### 参考文献

- 言語地理学定例研究会(1983)「琉球列島の言語の研究」全集落調査票用参考資料(喜界島)『沖縄言語研究センター資料』46, 沖縄言語研究センター
- 服部四郎(1976)『沖縄学の黎明』伊波普猷生誕百年記念会編, 東京, 沖縄文化協会
- 服部四郎(1959)『日本語の系統』東京, 岩波書店
- 服部四郎・上村幸雄・徳川宗賢(1959)「奄美島の諸方言」九学会連合奄美大島共同調査委員会編『奄美—自然と文化』,403-464
- 外間守善(1968)「沖縄の言語史」『文学』36-1
- 岩倉市郎(1934)「喜界語音韻概説」『方言』4(10), 春陽堂

- 岩倉市郎著, 柳田国男編(1977)『喜界島方言集(復刻版)』国書刊行会(1941年初版)  
上村孝二(1955)「奄美大島方言の発音について」『鹿児島大学紀要文科報告』4(上村1998,  
299-315による)
- 上村孝二(1998)『九州方言・南島方言の研究』秋山書店
- 松本 幹男(2000)「沖永良部島方言と喜界島方言における中舌母音について」『語学研究』  
95, 拓殖大学言語文化研究所
- 中本正智(1976)『琉球方言音韻の研究』東京, 法政大学出版局
- 中本正智(1978)「喜界島志戸桶方言の語彙」『琉球の方言』4, 法政大学沖縄文化研究所  
中本正智・中松竹雄(1984)「南島方言の概説」『講座方言学10 沖縄・奄美の方言』東京,  
国書刊行会,1-79
- 中本正智(1987)「喜界島方言の言語地理学的研究」『日本語研究』9,54-71
- 大野眞男(1999)「日本語音韻史における琉球宮古方言」『日本語学』18-5, 47-54
- 大野眞男(2002)「奄美方言における中舌母音の歴史的重層性」『国語学研究』41,1-10
- 大野眞男(2003)「北奄美周辺方言の音韻の特徴--喜界島方言・瀬戸内町方言」『岩手大学教  
育学部研究年報』63
- 白田理人・山田真寛・荻野千砂子・田窪行則(2011)「琉球語喜界島上嘉鉄方言の談話資料」  
『地球研言語記述論集』3,111-151
- 輝 博元(1975)「喜界島・塩道方言における語尾母韻の取り代えによる語構成」『立正大学  
国語国文』11
- 輝博元(1981)「喜界島・中里方言の音韻」『島田勇雄先生古希記念 ことばの論集』東京,  
明治書院
- 輝 博元(1982)「喜界島の方言」『国文学 解釈と鑑賞』47(9), 至文堂
- 輝 博元(1984)「喜界島・坂嶺方言の音韻」講座方言学10—沖縄・奄美地方の方言—』国書  
刊行会
- 上野善道(1992)『喜界島方言の体言のアクセント資料』東京外国語大学アジア・アフリカ  
言語文化研究所
- 上野善道, 西岡 敏(1993)『喜界島方言の用言のアクセント資料』東京外国語大学アジア・  
アフリカ言語文化研究所
- 上野善道(2002)「喜界島小野津方言のアクセント調査報告」『琉球の方言』26, 法政大学  
沖縄文化研究所
- 上野善道(2003)「喜界島方言の活用形のアクセント増補資料」『琉球の方言』27, 法政大  
学沖縄文化研究所